

1637

十九年

元老院會議筆記

自第五百一號  
至第五百卅三號

記錄課



元老院會議筆記明治十九年二月十七日

○第五百一號議案 北海道廳設置ノ件 檢視會

○第五百二號議案 明治十二年拾壹號布告萬國郵便聯合條約改正ノ件 萬國郵便爲替約定ニ加入ノ件 檢視會

會

○第五百四號議案 郵便條例第十六條第二 檢視會

○第五百五號議案 海軍治罪法中東京軍檢視會

議長 大木 喬任

出席議員

一番 田中 芳男

三番 長松 幹

四番 久我 通久

司法省文庫

第 5239 號

XB100  
G I  
I P

XB100  
C7HP

五番	三浦	安
九番	田邊	太一
十一番	伊丹	重賢
十二番	長岡	護美
十三番	青山	貞
十四番	岩下	方平
十六番	細川潤次郎	
十七番	東久世通禧	
十八番	宮本	小一
十九番	楠本	正隆
二十番	大久保一翁	

二十一番	林	友幸
二十二番	柴原	和
二十四番	何	禮之
二十五番	榎村	正直
二十七番	福原	實
二十八番	津田	真道
二十九番	橋口	兼三
三十番	渡邊	驥
三十二番	海江田信義	
三十四番	西村	貞陽
三十五番	永山	盛輝

三十六番	西	周
三十七番	岩村	定高
三十八番	壬生	基修
三十九番	町田	久成
四十一番	渡邊	清
四十二番	楫取	素彦
四十四番	大鳥	圭介
四十七番	鍋島	直彬
四十八番	村田	保
四十九番	神山	郡廉
五十番	河田	景與

五十一番	伊集院兼寛
五十二番	野村 素介
五十三番	津田 出
五十四番	由利 公正
五十五番	中島 錫胤
五十七番	山口 尙芳
六十番	鶴田 皓
六十一番	安場 保和
六十三番	高崎 五六
六十五番	中村 弘毅
六十七番	原田 一道

六十九番 大迫 貞清  
 七十一番 伊東 祐啓  
 七十二番 加藤 弘之

午前第十時五分開場

○議長 第五百一號第五百二號第五百四號第五百五號議案ノ檢視會  
 ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

第壹號

北海道ハ土地荒漠住民稀少ニシテ富庶ノ事業未タ普ク邊隅ニ及フ  
 コト能ハス今全土ニ通シテ拓地殖民ノ實業ヲ擧クルカ爲ニ從前置  
 ク所ノ各廳分治ノ制ヲ改ムルノ必要ヲ見ル因テ左ノ如ク制定ス

第一

函館札幌根室三縣并北海道事業管理局ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ置キ  
 全道ノ施政并集治監及屯田兵開墾授産ノ事務ヲ統理セシム

第二

北海道廳ヲ札幌ニ支廳ヲ函館根室ニ置ク

明治十九年一月二十六日

内閣總理大臣伯爵伊藤 博文  
 內務大臣伯爵 山縣 有朋  
 農商務大臣子爵 谷 干城

奉 勅

○二十二番 柴原 和 本案ニ對シ聊カ一辨セン抑モ函館札幌根室三縣并  
 北海道事業管理局ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ置クノ可否ハ業已ニ得テ

八  
論議ス可キニ非ス今ハ單々本案ノ明備ナルヤ明備ナラサルヤヲ檢  
視スルニ止マル而シテ本案果シテ明備ナルヤト問フニ明備却テ其  
度ニ過タルヲ覺フ即チ布告文ノ冒頭ニ緒言ヲ加ヘタルモノ是レナ  
リ此事タル從來ノ布告中ニハ多ク其例ヲ見サル所ニシテ獨リ嘗テ  
本院ノ檢視ニ付セラレシ十三年第四拾八號布告地方稅規則中改正  
ノ件ニ關シ今般歲計ヲ節約シ紙幣消却ノ元資ヲ増加シ併セテ地方  
ノ政務ヲ改良スルノ要用ヲ察スル云云ノ緒言アルヲ見ルノミ此布  
告ノ檢視會ヲ開クヤ既ニ便宜布告ノ後ナルヲ以テ本官ハ議場ニ一  
言ヲ發セサリシモ別席ニ在テハ其異例ナルヲ談セシコト有リ彼ノ  
歐米ノ例ニハ布告毎トニ必ス説明ヲ付スルヲ常ト爲スト聞ケハ其  
布告ヲ遵奉スル人民モ亦大ニ之ニ信憑ヲ置クナランモ我邦ニ於テ

九  
ハ僅ニ十三年第四拾八號布告ヲ除クノ外ニ其例ヲ見サルヲ以テ本  
案ハ人民ヲシテ異例ノ新式タルヲ感覺セシメン然レトモ是レ本ト  
檢視案ナルヲ以テ假令ヒ起立ニ問ヒ所謂ル明備ニ過キ却テ贅絮ニ  
屬スト決スルモ今ハ奈何シトモスル能ハス何トナレハ既ニ便宜布  
告セシ後ニ係レハナリ思フニ本布告ノ旨趣ハ第一第二ノ兩項ヲ以  
テ充分貫徹スルヲ得ヘク又若シ其改革ノ突然ニ出テ人民ノ感觸ヲ  
害フヲ慮ラハ某年某月ノ布告ヲ廢シテ更ニ此ノ如ク制定セル旨意  
ヲ記セハ足ルノミ然ルニ今故サヲニ此ノ如キ緒言ヲ加フルハ政府  
陰カニ懼ル所アリ以テ辨解ヲ爲セル者ノ如シ本官初メ第一號布告  
ヲ閱スルニ當リ以爲ラク今回內閣組織ノ改正ト共ニ布告式ヲ更改  
シ今後頒發スル奉勅布告ハ必ス一一ニ説明ヲ付スルナラント然ル

ニ第二號以下一モ此例ニ據ル有ラス夫レ苟モ或ル布告ニシテ理由書ヲ付ス可ラサル有ルナラハ寧ロ總テ理由書ヲ付セサルヲ可トス若シ今回ノ北海道處分ハ重大ノ改革ナルヲ以テ必ス此説明ヲ要スト云ハハ彼ノ鹿兒島縣ヲ分チテ宮崎縣ヲ置キ長崎縣ヲ分チテ佐賀縣ヲ置ク如キ同ク是レ縣治ノ改革ニシテ亦均シク重大ノ處分ト謂ハサルヲ得ス故ニ到底我邦ハ強テ其制ヲ歐米ニ取ラス固有ノ慣例ニ從フ可キノミ因テ此論意ヲ以テ議場ノ起立ニ間ヒ其改正ヲ内閣ニ上稟セン乎本案ハ既ニ已ニ便宣布告セシナレハ復タ奈何ントモスル能ハス故ニ本官ノ意見ヲ本院ノ存議錄ニ登記センコトヲ望ム且夫レ議長ノ内閣總理大臣ニ送牒シテ本案ニ對シ此ノ如キ發言ヲ爲セル議官アリシコトヲ報セハ本官ノ大ヒニ満足スル所ナリ偶マ

十三年第四十八號布告ニ對セシ舊思想ヲ今日ニ惹起シタレハ敢テ一言ヲ議場ニ留ムルナリ

○四十七番 鍋島直彬

本案ハ便宣布告後ノ檢視案ニ係レハ本院ハ只其明備ナルヤ明備ナラサルヤヲ問フニ止マリ敢テ其可否ヲ論スルヲ得サルナリ然レトモ二十二番ノ發言ニ至テハ本官ノ最モ感ヲ同フスル所トス凡ソ政府ノ頒發スル布告ハ一トシテ理由ノ存セサル無キモ布告毎トニ必ス之ヲ明文ニ示ス如キハ頗ル煩雜ヲ致サン且管ニ煩雜ヲ致スノミナラス若シ理由ノ詳悉ナラサル有ラハ人民ヲシテ爲メニ大ニ法律ニ疑議ヲ懷カシメントス二十二番ハ只管其異例ニ出タルヲ憂フルモ本官ハ一步ヲ進メテ本案獨リ今回ノ廢置ノ理由ノミヲ明示シ而シテ從前開拓使ヲ廢シ三縣ヲ置ケルハ其何ノ理由

ニ出タルヤヲ明示セサルヲ憂フルナリ故ニ若シ従前改革ノ理由ヲ明示セスンハ本案ニ今回改革ノ理由ヲ明示スルモ亦遂ニ徹底セサラントス然リ而シテ若シ一一ニ法律ノ理由ヲ明示セント要セハ政府ハ惟レ日モ足ラサラントス是レ本官ノ此緒言ヲ掲クルヲ非視スル所以ナリ然ルニ今ヤ之ヲ奈何ントモス可ラサレトモ聊カ二十二番ノ發言ヲ補陳シ以テ上局ノ參考ニ供スルコト爾リ

○五番 三浦安

本官ハ初メ本案ニ對シテ何等ノ感想ヲモ懷カサリシカ只今二十二番等ノ發言ヲ聞キ更ニ之ヲ考フルニ此説明ハ付記スルヲ善シトス然レトモ此説明即チ緒言タル素ト布告ノ式例ニ關セサルヲ以テ本案ニ之ヲ掲クルモ今後每號ニ必ス之ヲ掲クルヲ要セス且ヤ今後下付議案ニシテ若シ説明ヲ付スルヲ要スト認メハ本院ハ

之ヲ掲クルヲ得ン本官ハ法律ノ旨趣ヲ明瞭ナラシムル爲メニ今後ハ務メテ説明ヲ付スルヲ希望スルナリ二十二番ハ自說ヲ存議録ニ留メ併セテ議長ノ内閣ニ通知センコトヲ請求セリ本官モ亦此反對ノ意見ヲ有スルヲ以テ同ク之ヲ存議録ニ登記センコトヲ望ム

○四十一番 渡邊清

本案ニ對スル諸說ハ各其所見ヲ異ニスル如キモ本官ハ説明ヲ付スルヲ是認ス今者内閣ノ特ニ此説明ヲ付セル旨意ヲ推スニ向キニ内地ノ制ニ倣ヒ北海道ニ縣治ヲ立テタルモ政府ハ今日尙ホ之ヲ早シトシ以テ再ヒ釐革ヲ加ヘ更ニ北海道廳ヲ置キテ拓地ノ制ヲ布ケルナリ是ヲ以テ今後ノ施政及ヒ被治者ノ方向モ自ラ從前ニ同シカラス土地ノ性質モ亦隨テ内地ト異ナラサルヲ得ス是レ此緒言ヲ特示セシ所以ニシテ爾後尙ホ此例ヲ存スルヲ善シトス



○議長 發議已ニ盡タルヲ以テ決ヲ取ラン本案ヲ明備ナリト認ムル者ハ起立セヨ

起立者四十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ハ明備ナルニ決シ第五百二號檢視案ニ移ル第貳號布告及ヒ第三號布告ノ別冊ハ朗讀ヲ省ク

書記官 森山 朗讀

第貳號

明治十二年三月第拾壹號布告萬國郵便聯合條約ノ儀同十八年三月葡萄牙國里斯本府郵便大會議ニ於テ別冊改正議決ノ通本年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年二月二日

内閣總理大臣伯爵伊藤 博文

奉 勅

外務大臣伯爵 井上 馨

遞信大臣 榎本 武揚

第三號

明治十八年三月葡萄牙國里斯本府郵便大會議ニ於テ萬國郵便爲替約定ニ加入シ別冊萬國郵便爲替巴里府約定及ヒ里斯本府追加書ノ通本年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年二月二日

内閣總理大臣伯爵伊藤 博文

奉 勅

外務大臣伯爵 井上 馨

遞信大臣 榎本 武揚

○議長 本案ヲ明備ナリト認ムル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ハ明備ナルニ決シ第五百四號檢視案ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第四號

明治十五年<sup>十二月</sup>第五拾九號布告郵便條例第十六條及第二百十四條中左ノ通改正ス

第十六條

第一項ヲ改メ左ノ二項トナス

一 毒藥、劇藥、爆發燃燒シ易キ物品

一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス

第二百十四條

第三項ヲ改メ左ノ二項トナス

一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品

一 第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

明治十九年二月十日

奉 勅

內閣總理大臣伯爵伊藤 博文

遞信大臣 榎本 武揚

○議長 本案ヲ明備ナリト認ムル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ハ明備ナルニ決シ第五百五號檢視案ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第五號

明治十七年<sup>三</sup>月第八號布告海軍治罪法第七條中東京軍法會議ハ當分ノ内之ヲ閉鎖シ該會議ノ權限ニ屬スル事件ハ鎮守府軍法會議ノ審判ニ付ス

明治十九年二月十日

奉 勅

內閣總理大臣伯爵伊藤 博文  
海軍大臣伯爵 西郷 從道

○議長 本案ヲ明備ナリト認ムル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ハ明備ナルニ決ス即チ以上四案ノ檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午前第十一時二十分閉場

元老院會議筆記 明治十九年二月十五日

禁傍聽

○第五百三號議案 陸軍治罪法中 第一第二第三讀會

議長 大木喬任

出席議員

一番	田中芳男
三番	長松幹
四番	久我通久
五番	三浦安
七番	黑田清綱
九番	田邊太一
十一番	伊丹重賢

十二番 長岡 護美

十三番 青山 貞

十六番 細川潤次郎

十七番 東久世通禧

十八番 宮本 小一

十九番 楠本 正隆

二十番 大久保一翁

二十一番 林 友幸

二十二番 柴原 和

二十三番 神田 孝平

二十四番 何 禮之

二十五番 榎村 正直

二十七番 福原 實

二十八番 津田 真道

二十九番 橋口 兼三

三十一番 鍋島 幹

三十二番 海江田信義

三十三番 井田 讓

三十四番 西村 貞陽

三十五番 永山 盛輝

三十六番 西 周

三十七番 岩村 定高

五十三番	五十二番	四十九番	四十八番	四十七番	四十四番	四十三番	四十二番	四十一番	三十九番	三十八番
津田出	野村素介	神山郡廉	村田保	鍋島直彬	大鳥圭介	上杉茂憲	楫取素彦	渡邊清	町田久成	壬生基修

六十七番	六十六番	六十五番	六十三番	六十一番	六十番	五十八番	五十七番	五十六番	五十五番	五十四番
原田一道	尾崎三良	中村弘毅	高崎五六	安場保和	鶴田皓	宍戸璣	山口尚芳	福羽美靜	中島錫胤	由利公正

六十九番 大迫 貞清

七十一番 伊東 祐磨

七十二番 加藤 弘之

内閣委員 一番外 法制局參事官 周布 公平

午前第十時二十五分開場

○議長 第五百三號議案ノ第一讀會ヲ開ク表ハ朗讀ヲ略ス

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

陸軍治罪法中左ノ通加除改正ス

第八條審事審事補ノ五字ヲ削ル

第九條改正

軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官四名ヲ以テ判士トス  
但被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照  
シテ判士長判士ヲ更換ス

判士長	判士	被告人
佐官 一名	大尉若クハ中尉 少尉	二名 陸海軍少尉准士官及ヒ同等ノ軍人軍屬
佐官 一名	大尉 中尉	二名 陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐若クハ中佐 一名	少佐 大尉	二名 陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐 一名	中佐 少佐	二名 陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
少將 一名	大佐 中佐	二名 陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	少將 大佐	二名 陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬

中將	一名	中將	二名
	少將		陸海軍少將及 同等ノ軍人軍屬
大將	一名	大將	一名
	中將		陸海軍中將及 同等ノ軍屬
大將	一名	大將	二名
	中將		陸海軍大將及 同等ノ軍屬

第十一條審事ノ二字ヲ削ル

第二十六條以下各條中審事ノ二字ヲ理事ニ改ム

第三十六條第一項改正

司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外審判ノ命令ヲ下シ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十七條第三十八條中審問ノ二字ヲ審判ニ改ム

第四十四條理事ヲ經テノ五字ヲ削ル

第五十三條改正

理事審問ニ於テ共犯若クハ餘罪ヲ覺察シタル時ハ直チニ之ヲ審問ス可シ但共犯ノ官等其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於テ命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ係ル時ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十四條改正

理事審問ヲ終リ若クハ審問ヲ爲サスシテ直チニ判決ニ付ス可キ時ハ意見書ヲ作り會議ノ日時ヲ定メ訴訟文書ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ  
其事件不問ニ付ス可キモノハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十五條削除

第五十六條改正

軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士理事錄事各其席ニ著キタル後



判士長被告人ヲ出廷セシメ之ヲ訊問シ若クハ判士ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

第六十三條第二項第三項改正

法廷ニ於テ共犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタル時ハ直チニ其裁判ヲ爲シ若クハ會議ヲ中止シ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但共犯ノ官等其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於テ命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ係ル時ハ判士長之ヲ司令官ニ具申スヘシ

第六十五條第六十九條錄事ノ上理事ノ二字ヲ加フ

○番周布  
外一番公平

例ニ從ヒ本案ノ旨趣ヲ陳セン陸軍治罪法ニ所謂理事ト審事トハ各其職ヲ異ニシ之ヲ普通治罪法ニ照スニ理事ハ檢察官ニ相當シ審事ハ豫審判事ニ相當ス然リ而モ檢事豫審判事ハ各自ニ

獨立ノ職權ヲ有シ檢事ハ控訴上告ヲ爲スヲ得ルモ理事審事ハ共ニ獨立ノ職權ヲ有セス又理事ハ控訴上告ヲ爲ス能ハサル等彼此全ク同一ナルニ非ス其他普通治罪法ト陸軍治罪法ト相異ナル者少ナシトセス蓋シ二法ノ性質上自ラ然ラサルヲ得サルニ由ル前陳ノ如ク現行陸軍治罪法ハ理事ト審事ト各其職ヲ異ニスル爲メニ徒ラニ煩冗ヲ致シ彼ノ軍事裁判ノ主眼タル速決ヲ要スル旨趣ニ稱ハス是ヲ以テ陸軍治罪法ニ後レテ制定セル海軍治罪法ニハ獨リ理事ノミヲ置キ之ヲシテ陸軍治罪法ノ理事ト審事トノ二職ヲ兼子シメリ寔ニ宜キヲ得タル者ト謂フ可シ今ヤ官制ヲ改革スルニ方リ陸軍治罪法ニモ審事ヲ廢シ理事ヲシテ其職ヲ兼子シメハ一ニハ軍事裁判ノ速決ヲ要スル旨趣ニ稱ヒ一ニハ幾分カ經費ヲ減スルヲ得ントス是レ

本改正案ノ理由ニシテ其他ハ字句ノ修正ニ過キサレハ敢テ贅セス  
各官ノ此意ヲ領シテ議定センコトヲ望ム

○二十二番柴原和 本案ノ旨趣ハ内閣委員ノ辨明ニ因テ之ヲ領ス審事

ヲ廢シ理事ヲシテ豫審判事ノ職ヲ兼子シムルハ簡便ナル可シ思フ  
ニ普通治罪法ハ實際ニ行フ可ラサル事項ノ往往ニ之レ有ルヲ以テ  
見ニ實行セサル條項間マ多シ陸軍治罪法ハ是等ヲモ斟酌シタルヲ  
以テ善ク實際ニ適合シ彼ノ傍聽ヲ許サス代言人ヲ用ヒス控訴上告  
ヲ許ササル等悉ク其宜キヲ得タリ故ニ嘗テ本院ニ於テ陸軍治罪法  
ヲ議スルニ當リ某議官ハ一ノ修正ヲモ加ヘス直ニ議決上奏シテ可  
ナリト云ヒ只僅ニ字句ヲ修正スルニ止マレリ其齊整セル此ノ如シ  
今ヤ審事ヲ廢シ理事ヲシテ審事ノ職ヲ兼子シムルハ一層ノ改良ヲ

加フルナリ又第五十三條第五十四條第六十三條ヲ改正スル如キモ  
都テ其非ナルヲ見ス故ニ本官ハ大ヒニ本案ヲ贊成ス且本官ハ別ニ  
質問ヲ要スル無キヲ以テ第一讀會ヲ畢ラハ相續キテ第二第三讀會  
ヲ開クコトヲ建議セントス蓋シ本案ニ關シ内閣總理大臣ノ急施ヲ  
要スルヲ牒告セル有レハナリ

○四十八番村田保 本官ハ審事ヲ廢スルニハ異論ナキモ内閣委員ノ說

明ニ服セサル者アリ海軍治罪法ノ艸案ニハ審事ヲ載セタルモ討議  
ノ際ニ之ヲ省ケリ是ヲ以テ海軍治罪法ニ審事ヲ置カスト云フハ當  
レルモ是レ惟タ其官名ヲ載セサルノミ審事ノ地位ニ立ツ者ヲ缺ク  
ニ非ス其人ハ審問委員是レナリ故ニ海軍治罪法ト雖モ理事ハ審事  
ノ職ヲ兼ル者ト謂フ可ラス蓋シ此職ヲ兼ル如キノ制度ハ歐米各國

ニモ未タ之レ有ルヲ聞カス然リ而モ我國獨リ此二官ヲ置クヲ要セ  
 スト云フ乎又内閣委員ハ特ニ審事ヲ廢スル理由ノミヲ説キ其他ハ  
 文字上ノ修正ニ過キストシテ理由ヲ陳セサリシモ陸軍治罪法ヲ觀  
 ルニ第五章ニ審問ト云ヘル題目ヲ掲ケタレハ其第三十六條ニハ宜  
 ク審問ノ事ヲ載スヘク即チ現行法第三十六條ニハ審問ノ事ヲ載セ  
 タルニ今之ヲ審判ノ文字ニ改メリ夫レ審判トハ審問ト判決トノ二  
 者ヲ包含スル意義ナル可シ是ヲ以テ現行法第六章ノ判決ノ部内ニ  
 ハ審判ノ文字ヲ載スルモ第五章ニハ一モ其文字ヲ載セス本案ハ此  
 第三十六條ニ審判ノ文字ヲ用フルノミナラス第三十七條第三十八  
 條ノ審問ノ文字ヲモ審判ニ改メリ是等ハ文字上ノ修正ニ止マス且  
 ヤ現行法第三十六條ニハ「審事ヲシテ其審問ヲ爲サシメ」ト言ヘル

ヲ以テ障礙ヲ見サルモ本案ノ如ク「審判ノ命令ヲ下シ」ト言ヘハ司  
 令官ハ判決ノ命令ヲ理事ニ下スニ似テ頗ル奇異ニ屬ス因テ請フ内  
 閣委員ノ尙ホ一回ノ辨明ヲ與ヘンコトヲ

○周布  
公平番一

四十八番ノ質問セル所ハ說ノ如ク審問ヲ審判ト改メ

シハ審問シテ判決ニ付スル意義ヲ表ハス爲メナリ又其第三十六條  
 ハ司令官ヨリ審判ノ命令ヲ理事ニ下ス如クシテ頗ル奇異ニ屬スト  
 云フハ理由ナキニ非サルモ是レ理事ヲ經テ軍法會議ニ下スニ在リ  
 文字上ニハ分明ニ表見セサルモ實際ノ順叙ハ只今辨明スル所ノ如  
 シ是等ハ敢テ障礙ヲ見サラン要スルニ前陳ノ理由ナルヲ以テ今回  
 審問ヲ審判ト改メタルハ緊要ノ修正ト謂フ可キナリ

○村田  
保四十八番

内閣委員ノ辨明ノ如クナレハ本官ノ忖度スル所ニ

○違ハス然レハ本官ハ本案ニ對シテ更ニ異議ヲ有セス

○議長 質疑大體論共ニ盡キタルヲ以テ第一讀會ヲ畢ル

○二十二番 柴原和 建議ヲ爲ス本官ハ本案ニ對シテ聊カ異議ヲ有セス

各位モ蓋シ同感ナル可シ且ヤ總理大臣ノ特別ノ通牒モ之レ有リテ  
木案ハ急施ヲ要スルナレハ本日引續キ第二第三讀會ヲ開クヲ望ム

○議長 二十二番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者五十三人

○議長 多數ナルヲ以テ二十二番ノ建議ニ決シ直チニ第二讀會ヲ開  
ク本案ハ連帶議決ヲ要スル條項多シ因テ適宜ニ三四條ヲ連帶シテ

朗讀セシメン

書記官 森山茂 朗讀

布告案

陸軍治罪法中左ノ通加除改正ス

第八條審事審事補ノ五字ヲ削ル

第九條改正

軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官四名ヲ以テ判士トス  
但被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照  
シテ判士長判士ヲ更換ス

判士長	判士	被告人
佐官 一名	大尉若クハ中尉 二名	陸海軍少尉准士官及ヒ
	少尉 二名	同等ノ軍人軍屬
佐官 一名	大尉 二名	陸海軍中尉及ヒ
	中尉 二名	同等ノ軍人軍屬

大佐若ハ中佐	一名	少佐	二名	陸海軍大尉及同等ノ軍人軍屬
大佐	一名	中佐	二名	陸海軍少佐及同等ノ軍人軍屬
少將	一名	大佐	二名	陸海軍中佐及同等ノ軍人軍屬
中將	一名	少將	二名	陸海軍大佐及同等ノ軍人軍屬
中將	一名	中將	二名	陸海軍少將及同等ノ軍人軍屬
大將	一名	大將	一名	陸海軍中將及同等ノ軍屬
大將	一名	大將	二名	陸海軍大將及同等ノ軍屬

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ  
起立者五十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 朗讀

第十一條審事ノ二字ヲ削ル

第二十六條以下各條中審事ノ二字ヲ理事ニ改ム

第三十六條第一項改正

司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外審判ノ命令ヲ下シ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十七條第三十八條中審問ノ二字ヲ審判ニ改ム

第四十四條理事ヲ經テノ五字ヲ削ル

第五十三條改正

理事審問ニ於テ共犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタル時ハ直チニ之ヲ審問ス可シ但共犯ノ官等其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於テ

命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ係ル時ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者五十二人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 朗讀

### 第五十四條改正

理事審問ヲ終リ若クハ審問ヲ爲サスシテ直チニ判決ニ付ス可キ時ハ意見書ヲ作り會議ノ日時ヲ定メ訴訟文書ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ  
其事件不問ニ付ス可キモノハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

### 第五十五條削除

### 第五十六條改正

軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士理事録事各其席ニ著キタル後判士長被告人ヲ出廷セシメ之ヲ訊問シ若クハ判士ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

### 第六十三條第二項第三項改正

法廷ニ於テ共犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ直チニ其裁判ヲ爲シ若クハ會議ヲ中止シ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但共犯ノ官等其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於テ命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ係ル時ハ判士長之ヲ司令官ニ具申スヘシ  
第六十五條第六十九條録事ノ上理事ノ二字ヲ加フ

○四十八番 村田 保 第六十三條ニ對シ聊カ文字上ノ修正說ヲ提出ス陸

軍治罪法ニ缺席裁判ノ文字ヲ見ルモ其他ハ裁判ト言ハスシテ審判ト言ヘリ然ルニ本條ノミ獨リ裁判ノ文字ヲ用フルハ妥當ナラス因テ本官ハ此「裁判」ノ文字ヲ審判ト修正セントス

○議長 四十八番ノ動議ハ賛成者オキヲ以テ問題ト爲ラス

○二十九番 橋口 兼三 前キニ内閣委員ノ説明ヲ聽クニ從來理事ハ檢察官

ノ職ヲ行ヒ審事ハ豫審判事ノ職ヲ行フト云ヒ今又審事ヲ廢シ理事ヲシテ審事ノ職ヲ兼子シムト云ヘリ然ルニ陸軍治罪法第四章ニ陸軍檢察官ナル官名ヲ載セ明カニ其職務ヲ示セリ然レハ理事ハ何如ト問フニ第九條ニ之ヲ判士ニ加ヘ其他司令官ニ書類ヲ交付シ審事ニ審問ヲ命スル等其職ト爲ス所ハ檢察官ト同シカラス今此法案ヲ以テ審事ヲ廢シ理事ヲシテ審事ノ職ヲ兼子シメ判決書ニ理事ノ署

名捺印ヲ要スルコトニ改ント云フモ審事ハ判決書ニ署名捺印セス蓋シ審事ハ豫審判事ニ相當スル者ナルカ爲メナリ原來豫審判事ノ判決書ニ署名捺印スルハ道理ニ合セス然ルニ豫審判事ノ地位ニ立ツ理事ヲシテ判決書ニ署名捺印セシメントスルハ失當ナラスヤ因テ本官ハ此「第六十五條第六十九條」云云ノ一項ヲ削除セント欲ス

○二十二番 柴原 和 二十九番ノ動議ハ一理アルニ似タリ因テ時機ヲ失シタレトモ内閣委員ニ質問セン第六十五條第六十九條ニ理事ノ二字ヲ加フルノ必要ナル所以ハ如何ン

○周布 公平 外 一 番 二十二番ノ質問ニ答ヘン現行陸軍治罪法ニ據レハ理事ハ武官ト同シク判士ト爲リテ被告人ノ訊問ニ任スルモ本案ハ單ニ武官ノミヲ判士ト爲シテ之ニ訊問ヲ命セントス然ルニ第六十五

條第六十九條ノ場合ノ如キ理事ヲ加ヘサレハ實際ノ障碍ヲ免レス夫レ普通治罪法ニ在テハ檢察官ヲシテ公判席ニ立會ハシムルモ陸軍治罪法ニ在テハ別ニ檢察官ヲ置カス而シテ理事ハ傍ヲ檢察官ノ職ヲ行フ故ニ理事ヲシテ公判席ニ立會ハシメントスルナリ要スルニ本案ノ旨趣ハ理事ヲ判士ニ加フルヲ止メテ公判席ニ立會ハシメ以テ事務上ノ便益ヲ謀ルニ在レハ第六十五條第六十九條ニ理事ノ文字ヲ加フルハ本案ノ一大要旨ナリトス

○二十九番 橋口 兼三 内閣委員ハ理事ノ文字ヲ加フルヲ必要ナリト云フモ理事ニシテ檢察官ノ職務ヲ行フハ萬モ之レ有ル可キノ事ニ非ス元來本案ノ主眼ハ審事ヲ廢シ理事ヲシテ審事ノ職ヲ兼子シメントスルニ在リ而シテ理事ノ普通治罪法ニ於ル豫審判事ニ相當スルハ

内閣委員モ既ニ認ル所トス故ニ理事ニシテ判決書ニ署名捺印スルハ眞ニ失當ト謂フ可シ又假令ヒ理事ヲ檢察官ト做スモ檢察官ハ公判席ニ列スルノミ判決書ニ署名捺印スルノ例ヲ見ス其レ此ノ如ク何ノ點ヨリ之ヲ觀ルモ理事ニシテ判決書ニ署名捺印スルノ必要ヲ感セス故ニ本官ハ熱心ニ削除センコトヲ望ム

○六十六番 尾崎 三良 本官ハ初メ他ニ修正ノ意見ヲ有セシモ只今二十九番ノ動議ヲ聽クニ及ヒテ其大ヒニ條理ニ合スルヲ覺フ元來現行法ニハ理事ヲ判士ニ加ヘタルヲ以テ理事ハ裁判官ノ地位ニ立チ判決書ニ署名捺印スルモ本案ハ判士ニ加ヘス故ニ理事ノ署名捺印スルハ失當ナリ且ヤ本案ノ如クセハ理事ハ自己ノ署名捺印セシ判決書ヲ自己ノ名義ヲ以テ判士ヨリ收受スルノ結果ヲ致シ太々穩當ヲ缺



ク本官ハ此第二理由ヲ以テ修正説ヲ蓄ヘシモ更ニ二十九番ノ動議ヲ賛成ス

○議長 二十九番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○五番 三浦安 現問題ハ其理ヲ得タルカ如シ因テ時機ヲ失シタレトモ

内閣委員ニ質問セン過刻内閣委員ハ現行法ニハ理事ヲ判士ニ加フルモ今後ハ之ヲ加ヘスト云ヘリ然ルニ理事ヲシテ判決書ニ署名捺印セシムルハ惟タ公判席ニ立會ヘル一事ノミヲ證スル爲メナル歟將タ公判席ニ立會フ以上ハ其判決ニ關シ自己ノ意見ヲモ陳述スルヲ得セシメ因テ以テ其判決ニ同意ヲ表セシコトヲ證スルカ爲メナル歟

○外 一番周布公平 公判席ニ立會ヘルヲ證スル者ト領會スルヲ請フ

○五番 三浦安 果シテ然レハ現問題ヲ賛成ス審事モ判決書ニハ署名捺

印セス理事ヲ立會ハシムルハ判士ノ判決ニ不法ナカラシメンカ爲メナリト云フ如クシハ別題ニ屬スルモ惟タ公判席ニ立會ヘルヲ證スル爲メニ署名捺印セシムルナレハ其要用ヲ見ス加之本案ノ如クセハ却テ理事ヲ判士ノ列ヨリ除ケル美意ニ背馳セン因テ現問題ニ可決センコトヲ望ム

○五十七番 山口尙芳 本官モ二十九番ヲ賛成ス現行法第九條ノ判士表ニ

「尉官三名、理事一名」ト言ヘルヲ今回ハ「大尉若クハ中尉二名、少尉二名」ト改メ自餘皆然リ然レハ則チ他モ宜ク其旨趣ヲ貫通スヘキニ理事ノ嘗テ判士ニ加ハリ判決書ニ署名捺印シタルヨリ内閣ハ偶マ誤リテ此第六十五條等ニ理事ノ文字ヲ加ヘントセシナル可シ故ニ

二十九番ノ動議ハ動ス可ラサル理由ヲ有スル者トス

○二十二番柴原和

本官モ初メハ二十九番ノ動議ヲ條理ニ合セル如ク

思量シテ内閣委員ニ疑義ヲ質セシニ明瞭ナル答辨ヲ得テ本案ノ決

シテ動カス可ラサルヲ覺レリ夫レ陸軍治罪法ハ被告人ノ身位ニ隨

フテ判士長判士ト爲ル者ノ身位ヲ異ニシ訊問ニ傍聽ヲ禁シ判決ニ

對シテ控訴上告スルヲ許サス臨戰合圍ノ地ニ在テハ司令官ハ陸軍

卿ニ上申セスシテ直チニ死刑ヲ宣告シ及ヒ其執行ノ命令ヲ下スヲ

得ル等普通治罪法ト其趣ヲ異ニスル少ナカラス是レ彼此其性質ヲ

同ウセサルカ爲メナリ理事ヲシテ判決書ニ署名捺印セシムルモ普

通治罪法ト性質ヲ同ウセサルニ出ルナレハ敢テ失當ト謂フ可ラス

且既ニ第五十六條ニ理事ノ文字ヲ加フルニ決シタルニ非スヤ彼ニ

理事ヲ加ヘ此ニ之ヲ加ヘサレハ不具ノ法律タルヲ免レス殊ニ理事

ノ公判席ニ立會フハ本案ニ始マルニ非サルナリ

○二十九番橋口兼三

陸軍治罪法ト普通治罪法トハ其性質ヲ同ウセスト

云フモ彼此大體ハ異ナラス抑モ豫審判事ハ被告人ヲ訊問シ調書ヲ

作リテ當該裁判官ニ提出シ以テ其照證ニ供スルノミ其判決ニ容喙

スル權理ヲ有セス然ルニ豫審判事ニ相當スル理事ヲシテ判決書ニ

署名捺印セシムルハ失當ニ非スシテ何ソ又第五十六條ノ軍法會議

ニ理事ヲ立會ハシムルハ固ヨリ不可ナル無シ普通治罪法ニ檢察官

ノ公判席ニ立會フモ亦同シ故ニ此點ニハ修正ヲ要セサルモ第六十

五條ノ一項ハ斷然ニ削除セサル可ラス因テ前說ヲ固執ス

○四十七番鍋島直彬

二十九番ニ質問ス第六十五條ニ理事ノ文字ヲ加フ

可ラサル理由ハ過刻ノ説明ニ因リ明カニ之ヲ領シ本官モ亦其説ノ當レヲ信ス然リ而モ第六十九條ニ理事ノ文字ヲ加フ可ラサル理由ニ關シテハ未タ充分ノ説明ヲ得ス因テ其辨明ヲ煩ハシ以テ本官ノ現問題ニ對スル方向ヲ決セント欲スルナリ

○二十九番 橋口兼三

本官ノ論旨ハ判決書ニ理事ノ署名捺印スルヲ非視スルニ存シ而シテ第六十九條ニ理事ノ文字ヲ加フ可ラストスル理由ハ現行法ニ審事ノ文字ヲ載セス故ニ今亦之ニ倣フテ理事ノ文字ヲ加フ可ラスト云フニ過キス

○三十三番 井田議

二十九番ノ動議ハ一理アルニ似タレトモ本官ハ之ヲ賛成スル能ハス問題賛成者タル一議官ハ理事ノ文字ヲ加ヘタルハ内閣ノ錯誤ニ出タル可シト云ヒ而シテ其理由ヲ聽クニ現行法第

九條ノ判士表ニハ理事ヲ判士ニ加フルモ今回ハ之ヲ除ケリ然レハ則チ理事ノ判決書ニ署名捺印ス可キノ理由ヲ見ス云云ト云フニ過キス嗚呼是レ何ノ言ソ法律ハ宜ク全篇ヲ通覽シテ以テ解釋ヲ下スヘキナリ説ノ如ク今回ハ理事ヲ判士ヨリ除ケルモ其餘ク可キ理由ノ存シ第六十五條第六十九條ニ理事ノ文字ヲ加ヘタルモ亦其加フ可キ理由ノ存スルナリ只今某議官ノ第六十九條ニ理事ノ文字ヲ加フ可ラストスル理由ノ説明ヲ俟テ問題ノ取舍ヲ決セント云ヘルモ思フニ法律ハ只一偏ノミヲ把リテ解釋ス可ラスト爲スノ旨趣ニ出タル可シ畢竟内閣ノ偶マ誤マリ云云ト説クハ杜撰ニシテ取ルニ足ラス之ニ反シテ二十二番ノ判決并ニ審判ニモ理事ノ之ニ立會ヒ及ヒ反對論者ノ第五十六條ニ理事ノ文字ヲ加フルヲ是認シ而シテ第

六十五條等ニ之ヲ加フルヲ非視スルノ失當ナルヲ駁撃セルハ動カ  
ス可ラサルノ定論タリ本官ノ所見ヲ以テスルモ本案ニ可決セサレ  
ハ實際ニ障礙ヲ致スヲ免レサラント信ス因テ現問題ノ否決ニ歸セ  
ンコトヲ望ム

○三十一番 鍋島 幹 第六十五條ニ理事ノ文字ヲ加フ可ラサル理由ハ明  
ニ之ヲ解セリ此點ニ關シテハ本官モ同意ナレトモ第六十九條ニ理  
事ノ文字ヲ加フ可ラスト云フニ至テハ同意スル能ハス第六十九條  
ハ裁判宣告ノ場合ニ理事ヲ立會ハシメサレハ却テ二十九番ノ持説  
ノ基本タル普通治罪法ノ旨趣ニ反スルニ至ル故ニ現問題ニ對シテ  
ハ暫ク此ニ不同意ヲ表ス

○六十六番 尾崎 三良 本官ハ第六十九條ニ思ヒ至ラスシテ二十九番ヲ贊

成セシモ熟考スルニ只今某議官ノ云ヘル如ク第六十九條ニハ理事  
ノ文字ヲ加ヘサル可ラス然ラサレハ第五十六條ト權衡ヲ失シテ妥  
當ナラス故ニ若シ二十九番ニシテ前説ヲ改メ第六十五條ノミニ理  
事ヲ加ヘサル修正説ト爲サハ同意ス可キモ然ラサレハ已ムヲ得ス  
現問題ノ消滅スルヲ俟チ更ニ前陳ノ修正説ヲ提出セント欲スルナ  
リ

○二十九番 橋口 兼三 六十六番ノ忠告ヲ得タレトモ本官ハ斷然ニ前説ヲ  
執リテ動カス抑モ第五十六條ハ軍法會議ヲ開ク場合ニ係レハ初ヨ  
リ審問ニ從事セシ理事ノ立會ヲ要スト雖モ第六十五條ニハ理事ノ  
文字ヲ加フ可ラス其理由ハ前言既ニ之ヲ盡セリ又第六十九條ノ裁  
判宣告ハ普通法ノ裁判宣告トハ體裁順叙共ニ同シカラス普通法ニ

在テハ裁判官ノ特權ヲ以テ直チニ犯罪者ニ對シテ裁判ヲ宣告スルモ陸軍治罪法ニ在テハ判士長ト雖モ斯ル特權ヲ有セス即チ第六十九條ノ如キハ上官ノ命令ニ因テ裁判ヲ宣告スル順叙ヲ示スニ過キス故ニ其體裁ヲ裝ヒ故サラニ理事ノ立會ヲ命スル要用ヲ見サルナリ本官ハ前ニ理事ハ從前ニ在テ審事ノ立會ハサル例ニ倣ヒ云云ト辨シタレトモ尙ホ熟考ヲ經テ理事ノ文字ハ第六十九條ニモ之ヲ加フ可ラサルヲ信スルニ至レリ

○二十八番

津田眞道

本官ハ原案ヲ是認ス抑モ世ノ開明ニ赴クト云フ如キ點ヨリ本案ヲ論スレハ退步ヲ致スノ看ヲ爲セトモ他ノ點ヨリ考察ヲ下セハ田舎ニ在テハ農ニシテ商ヲ兼ヌル少カラス現ニ農民ニシテ酒ヲ賣リ鹽ヲ賣リ若クハ荒物ヲ賣ル如ク其職業ヲ分ツ能ハサ

ルハ實ニ已ムヲ得サルナリ歐米各國ノ例ニ依レハ理事審事ノ如キ各其職ヲ分ツ可キモ本邦今日ノ實況ニ在テハ農ノ商ヲ兼ヌル如ク理事ヲシテ審事ノ職務ヲ執ラシメテ可ナリ某議官ハ理事ニシテ豫審判事ノ職ヲ兼ヌルハ失當ナリト辨スレトモ是レ普通治罪法ニ據リテ立論セルナル可シ夫レ已ニ理事ト審事トノ職務ヲ併合スル以上ハ普通治罪法ニ據リテ駁難ス可キニ非ス回顧スレハ舊幕府ノ時ニ當リ町奉行ニシテ兼テ訴訟裁判ノ事務ヲ掌理シ與力其下調ヲ爲シ町奉行ハ署名ヲ爲スニ止マリシ者ノ如シ蓋シ與力ノ奉行ヨリモ當時ノ法律ニ通熟セシハ疑フ可ラス彼ノ大岡越前守ノ如キハ賢明ヲ以テ著稱セシ人ナレハ自ラ裁判ヲ爲セシナル可キモ他ハ概子與力ニ委スルニ過キサリシノミ本案ニ掲クル理事ハ陸軍部内ノ法

律ニ通熟セル者ナル可ケレハ將校タル判士ハ恐クハ署名捺印ヲ爲スニ止マルト言フモ敢テ誣ヒサラン然ルニ理事ヲシテ判決書ニ署名捺印セシメス法廷ニ臨席セシメサルトキハ或ハ不法裁判ヲ下スノ虞リ無シトセス抑モ本案ノ理事ハ現行法ノ理事ト審事トノ職務ヲ兼掌スル者ニシテ之ヲ普通治罪法ニ比スレハ豫審判事ト檢事トノ職務ヲ兼掌スル者ナルヲ以テ判決書ニ署名捺印スルモ宣告執行ノ法廷ニ臨席スルモ毫モ支障ヲ見サルノミナラス却テ實際ニ適應スル者ト謂フ可キナリ然ルヲ此便法ヲ議スルニ歐米ノ例ヲ援クハ允當ナラス本官ハ本案ヲ看テ本邦ノ如キ半開國ニ適當スル改正案ナリト認ムルナリ

○五番 三浦安

現問題ニ關シ三十一番六十六番等ヨリ第六十五條ト第

六十九條トハ差別アルヲ以テ併セテ理事ノ文字ヲ削去スルハ不可ナリト論シ二十九番ニ忠告セシモ二十九番ハ前說ヲ固持シテ動カスト答言セリ本官ノ如キモ前ニハ輕輕ニ看過シタレトモ今ニ至リ三十一番六十六番ト同シク第六十九條ハ本案ノ是ナルヲ知レリ發議者タル二十九番モ第六十五條ノ修正ヲ眼目ト爲セルナランニ前說ヲ固持セハ恐クハ其說ハ議場ニ行ハレサラン宜ク其目的ヲ達スル爲メニ眼目タル第六十五條ノ削除ノミニ止ムヘキナリ願クハ三十一番六十六番ノ忠告ヲ容レテ其說ヲ改メンコトヲ然ラサレハ他別ニ修正說ノ出ル有リテ再ヒ議場ヲ煩ハスニ至ラン幸ニ發議者ノ重キヲ採リ輕キヲ舍ンコトヲ望ム

○六十六番 尾崎三良

本官ハ前ニ第六十九條ニハ理事ノ文字ヲ加フルノ

妥當ナルヲ信シテ二十九番ニ忠告セシモ二十九番ハ固執シテ動カ  
 ス故ヲ以テ今己ムヲ得ス本官ノ修正説ヲ陳述セン二十九番ハ第六  
 十九條ノ場合ニモ理事ノ出廷ヲ要セスト云フモ若シ然ラハ第五十  
 六條ノ訊問ノ場合ニモ其出廷ヲ要セサルカ如シ苟クモ第五十六條  
 ニシテ之ヲ要ストナラハ第六十九條モ亦然ラサルヲ得ス某議官ハ  
 理事ハ法律ニ通熟セル者ナル可キヲ以テ之ヲシテ終始俱ニ軍法會  
 議ニ干與セシメサル可ラスト云フモ彼ノ第六十五條ノ場合ニ於テ  
 ハ決シテ理事ノ署名捺印スルヲ要セスト思惟ス然レトモ第六十九  
 條ノ場合ニハ第五十六條ノ場合ト同一ノ理由ヲ以テ理事ヲシテ出  
 廷セシムルヲ可トス故ニ本官等ハ「第六十五條」ノ五字ノミヲ削除  
 セント欲スルヲ以テ二十九番ノ動議ト混雜セサラシムル爲メニ議

長ノ先ツ「第六十五條」ノ五字ヲ削除スル決ヲ取り而ル後ニ兩條共  
 ニ削除スル決ヲ取ランコトヲ望ム又某議官ノ理事ノ文字ヲ此兩條  
 ニ加ヘシハ錯誤ニ出テタル可シト云ヘルハ極端ニ走レル説ナルノ

○議長 六十六番ハ更ニ「第六十五條」ノ五字ヲ削除スル修正説ヲ提  
 出シテ二十九番ノ修正説ト分割シテ取決ヲ請フト云フモ先ツ現問  
 題タル二十九番ノ修正説ヲ取決セスンハ混雜ヲ生セン故ニ「第六  
 十五條」ノ五字ヲ削除スルノ修正ヲ加ヘントナラハ先現問題ノ消否  
 ヲトシテ後之ヲ取舍シテ可ナラン

○六十六番尾崎三真 然ラハ現問題否決セハ更ニ本官ノ修正説ヲ提出ス  
 ルヲ得ヘキヤ

○議長 然リ

○六十六番 尾崎三頁 然ラハ時機ヲ待チテ發議セン

退席 二十三番 神田 孝平

○五十七番 山口尚芳 本官ハ元來理事ヲ法廷ニ臨席シ判決書ニ署名捺印

セシムルニハ異議ヲ存セサレトモ其錯誤ニ出テタル可シト云ヒシハ他ノ故ニ非ス今回第九條ノ表ヲ掲ケテ判士ノ組織ヲ改メ理事ヲ判士ノ員中ヨリ除去セルニ後條ニ至リテ突然ニ理事ノコトヲ言ヘルヲ以テ或ハ錯誤ニ出タルナラント云ヒシノミ例ヘハ元老院議官ハ勅任ト定マレルニ書記官ニシテ突然ニ議官ノ席ニ列スル有ラハ實ニ失體ナリ然レトモ若シ元老院議官ハ勅任ナレトモ奏任ナル書記官モ亦其席ニ列スルヲ得ルトノ明文ヲ存セハ本官敢テ異議ヲ唱

ヘス到底本官ハ第九條ノ表中ニ既ニ理事ヲ除去セル以上ハ第六十五條第六十九條等ニ理事ヲ加フルヲ要セスト信ス某議官ハ第六十五條ニハ理事ノ文字ヲ要セサルモ第六十九條ニハ之ヲ要スト云フモ本官ハ兩條共ニ之レ無クシテ可ナリト認ム理事ノ出席セサルモ宣告ヲ爲スニ不便ヲ感スル無カル可ケレハナリ要スルニ現行法ハ判士ノ員中ニ理事ヲ加ヘタレトモ今回ハ之ヲ除ケルヲ以テ第六十五條第六十九條共ニ之ヲ加フルヲ要セス故ニ問題說ニ賛成スルナリ

○三十三番 井田讓 只今五十七番ノ元老院議官ノ資格ニ關スル比喻ヲ聽クモ是レ大ナル誤謬ト謂フ可ク議官ハ公然ニ書記官ノ意見ヲ議場ニ陳述ス可キニ非ス然ルニ本案ハ之ト異ニシテ第五十四條ニ「理



事審問ヲ終リ若クハ審問ヲ爲サスシテ直チニ判決ニ付ス可キ時ハ意見書ヲ作り「云云ノ明文ヲ存スルヲ以テ元老院書記官ノ意見ノ議場ニ出ルトハ大ニ同シカラス第九條ノ表中ニハ理事ノ名目ヲ掲ケサルモ既ニ軍法會議ハ理事ヲ置ク可キ構成ニ係ルヲ以テ判決書ニ署名捺印シ宣告執行ノ法廷ニ臨席ス可キハ論ヲ待タス本官ハ敢テ單ニ武官ノミヲ以テ判士ニ充ルトキハ不便ナル可シト云フノ故ヲ以テ陳辨シタルニ非サルナリ

○周布外一番公平 二十九番ノ動議ニ關シテ種種ノ論議出テ五十七番ノ如キハ理事ノ文字ヲ兩條ニ加ヘタルハ錯誤ニ出タラント云フモ内閣豈斯ノ如キ錯誤ヲ爲サンヤ此事タル本員ノ辨明ヲ待タスシテ各官ノ知悉セル所ナル可ケレハ本員ハ只其錯誤ニ非サルコトヲ一言

ス抑モ理事ノ判決書ニ署名捺印スルハ普通治罪法ニ據リテ考察セハ奇異ノ事ニ屬ス可キモ此一點ニ關シテハ第一讀會ノ初メニ陳述セシ如ク理事ハ常ニ軍法會議ニ干與スルヲ以テ本案ノ精神ト爲スナレハ迅速簡易ヲ主トスル陸軍治罪法ヨリ之ヲ言ヘハ若シ理事ノ文字ヲ兩條ニ加ヘサルヤ本案ノ改正ハ無効ニ歸センノミ請フ發議者及ヒ賛成者ノ此旨趣ヲ領センコトヲ

○議長 二十九番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ  
起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ二十九番ノ修正說ハ消滅ス

○六十六番尾崎三頁 本官ハ錄事ノ上ニ理事ノ文字ヲ加フルハ獨リ第六十九條ニ止メント欲シ「第六十五條」ノ五字ヲ削除スル修正說ヲ提

出ス其理由タル前キニ陳述セシ如ク第六十九條ノ五字ヲ存留セン  
 ト欲スルハ宣告執行ノ場合ニハ理事ヲ法廷ニ臨マシムルヲ要スレ  
 ハナリ只今内閣委員ハ理事ヲシテ常ニ軍法會議ニ干與セシムルヲ  
 精神ト爲スト云フモ理事ヲシテ判決書ニ署名捺印セシムルハ妥當  
 ヲ缺クニ似タリ又内閣委員ノ陳辨セシ迅速簡易ヲ主トスル一點ヨ  
 リ之ヲ論スルモ理事ニ署名捺印セシメサルヲ善シトス假令陸軍治  
 罪法ト普通治罪法ト相異ナル有リトスルモ究竟治罪法ノ大體ヲ破  
 壞セサルヲ緊要ナリトス

退席

十二番

長岡 護美

○十一番 伊丹重賢 六十六番ノ動議ヲ賛成ス此事ニ關シテハ今朝來數回  
 ノ討論ヲ經タルヲ以テ別ニ喋辨ヲ要セサレトモ本官ハ第六十九條

ノ場合ニハ理事ヲシテ法廷ニ臨マシムルヲ善シトスルモ第六十五  
 條ノ場合ニ當リ從來ノ審事ノ職務ヲモ兼掌セル理事ヲシテ判士長  
 判士録事ト共ニ判決書ニ署名捺印セシムルハ甚タ妥當ナラス且ヤ  
 其判決ニシテ理事ノ意見ノ如クナレハ或ハ可ナレトモ其意見ト反  
 對スル判決書ニモ署名捺印セシムルハ不可ナルカ如シ幸ニ六十六  
 番ノ修正說ニ可決センコトヲ

○議長 六十六番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○六十番 鶴田皓 本官モ六十六番ヲ賛成ス說ノ如ク第六十九條ノ場合  
 ニハ理事ヲ臨席セシムルヲ至當ナリト爲スモ第六十五條ノ場合ニ  
 於テ判決書ニ署名捺印セシムルハ失當ナラン原來判決書ニ署名ス  
 可キ者ニシテ署名セサルトキハ其判決ノ効力ヲ失ス可キヲ以テ反

對論者ノ第六十五條ニ理事ノ連署ヲ要スト認メタルハ一理ナキニ非ス然ルニ現行法ノ理事ハ判士ノ一部分ナルヲ以テ之ニ連署セシムルハ素ヨリ當然ナレトモ本案ノ如ク理事ヲ判士ノ數外ニ置ケル以上ハ何ノ爲メニ之ヲシテ第六十五條ノ場合ニ署名捺印セシムルヲ須ヒシ要スルニ理事ハ檢察官ノ職務ヲ兼掌スルヲ以テ公判席ニ立會フヲ要ス可キモ判決ニ與カル權理ヲ有セス然ルニ強ヒテ判決書ニ署名捺印セシムルノ理由アルヲ見ス只其判決書中ニ理事ノ立會ヘルコトヲ示シテ足ルノミ又第六十九條ノ場合ニハ理事ヲシテ列席セシムルヲ要ス其理由ハ判決書ヲ作り訴訟文書ヲ具ヘテ司令官ニ上申シ司令官ハ更ニ之ヲ陸軍卿ニ上申シ若クハ內閣ニ稟議スルナレハ時トシテハ再查ヲ命スル有ル可キヲ以テナリ

○四十一番 渡邊清

本官ハ問題說ニ同意セス陸海軍治罪法ハ自ラ普通治罪法ト異ナル可キハ論ヲ待タス某議官ハ第六十五條ト第六十九條トニ關シ理事ノ連署及ヒ臨席ノ要不要ヲ論スルモ元來理事錄事等ニ任用セラルルハ法律ニ通熟スル者ナル可ク判士長ト爲リ判士ト爲ル者モ素ヨリ法律ニ通熟ス可キモ理事錄事等ノ常ニ身ヲ其事ニ委スル者ニ比スレハ自ラ逕庭ヲ存ス故ニ軍法會議ヲ開クヤ理事錄事ヲ判士ニ比スレハ其職任ヲ盡スハ一層ニ重要ナル可キヲ信ス故ニ特ニ第六十九條ニノミ理事ノ文字ヲ加ヘテ第六十五條ニ之ヲ加ヘサルハ體裁ヲ得タリト謂フ可ラス想フニ原案ハ便利ノ目的ヨリ成レル者ナル可ケレハ第六十五條第六十九條共ニ原案ノ如ク理事ノ文字ヲ加フルヲ善シトス

退席

五十六番

福羽 美靜

○十六番 細川潤次郎

簡單ニ原案賛成ノ意見ヲ陳セン第六十五條第六十九條共ニ原案ノ如ク理事ヲシテ判決書ニ連署捺印セシメ又宣告ヲ爲スニ當リ之ヲシテ法廷ニ臨席セシムルモ毫モ障碍ナキヲ信ス若シ理事ハ豫審官ナルヲ以テ判決ニ關與セシム可ラスト云フトキハ第五十六條即チ被告人ヲ訊問スル場合ニモ列席セシム可キニ非ス某議官ハ第六十九條ノ場合ニ當リ理事ヲシテ法廷ニ列席セシムルハ可ナレトモ第六十五條ノ場合ニ當リ理事ヲシテ判決書ニ署名捺印セシムルハ不可ナリト云ヘリ然レトモ錄事ノ如キハ判決ヲ爲スノ權理ヲ有セサレトモ判決書ニ署名捺印シテ人毫モ怪ミ咎ムル無シ理事ノ如キモ既ニ列席スル以上ハ意見ヲ陳述ス可キヲ以テ之ヲ

シテ署名捺印セシムルモ亦不可ナルヲ見ス又某議官ハ理事ニシテ自己ノ意見ニ合セサル判決書ニ署名捺印スルハ不可ナリト云フモ是レ特ニ理事ノミニ限ラス判士長ト判士ト意見ヲ異ニシ若クハ甲判士ト乙判士ト意見ヲ異ニスルモ判士長ノ說ニ從ヒテ署名捺印スルハ職掌上ノ義務ト謂フ可ク理事ト雖モ何ソ之ニ異ナラン故ニ判決書ニ署名捺印セシメテ毫モ不可ナルノ理由ヲ見ス因テ本官ハ原案ヲ是認スルナリ

○六十六番 尾崎三頁

本官ノ提出セシ修正說ニハ賛成者ヲ得タルモ亦反對者ヲ見ル因テ其反對論ヲ排スル爲メニ一辨セン某議官ハ第六十五條ノ場合ニ理事ヲシテ判決書ニ署名捺印セシムルヲ可トス錄事ノ如キ判決ヲ爲スノ權理ヲ有セサル者ニシテ判決書ニ署名捺印ス

退席

五十六番

福羽 美靜

○十六番 細川潤次郎

簡單ニ原案賛成ノ意見ヲ陳セン第六十五條第六十九條共ニ原案ノ如ク理事ヲシテ判決書ニ連署捺印セシメ又宣告ヲ爲スニ當リ之ヲシテ法廷ニ臨席セシムルモ毫モ障碍ナキヲ信ス若シ理事ハ豫審官ナルヲ以テ判決ニ關與セシム可ラスト云フトキハ第五十六條即チ被告人ヲ訊問スル場合ニモ列席セシム可キニ非ス某議官ハ第六十九條ノ場合ニ當リ理事ヲシテ法廷ニ列席セシムルハ可ナレトモ第六十五條ノ場合ニ當リ理事ヲシテ判決書ニ署名捺印セシムルハ不可ナリト云ヘリ然レトモ錄事ノ如キハ判決ヲ爲スノ權理ヲ有セサレトモ判決書ニ署名捺印シテ人毫モ怪ミ咎ムル無シ理事ノ如キモ既ニ列席スル以上ハ意見ヲ陳述ス可キヲ以テ之ヲ

シテ署名捺印セシムルモ亦不可ナルヲ見ス又某議官ハ理事ニシテ自己ノ意見ニ合セサル判決書ニ署名捺印スルハ不可ナリト云フモ是レ特ニ理事ノミニ限ラス判士長ト判士ト意見ヲ異ニシ若クハ甲判士ト乙判士ト意見ヲ異ニスルモ判士長ノ說ニ從ヒテ署名捺印スルハ職掌上ノ義務ト謂フ可ク理事ト雖モ何ソ之ニ異ナラン故ニ判決書ニ署名捺印セシメテ毫モ不可ナルノ理由ヲ見ス因テ本官ハ原案ヲ是認スルナリ

○六十六番 尾崎三良

本官ノ提出セシ修正說ニハ賛成者ヲ得タルモ亦反對者ヲ見ル因テ其反對論ヲ排スル爲メニ一辨セン某議官ハ第六十五條ノ場合ニ理事ヲシテ判決書ニ署名捺印セシムルヲ可トス錄事ノ如キ判決ヲ爲スノ權理ヲ有セサル者ニシテ判決書ニ署名捺印ス

ルモ人復タ之ヲ怪ミ咎メスト云フモ録事ハ普通治罪法ノ書記ニ相  
當スル職員ナレハ判決書ニ署名捺印ス可キハ辨ヲ待タサレトモ理  
事ハ裁判官ニ非ス又書記ニ非ス普通治罪法ノ豫審判事ト檢察官ト  
ノ職務ヲ兼ヌル者ナリ抑モ軍法會議ノ判官タル判士長一人ト判士  
四人トニ止マルニ理事ヲシテ突然ニ判決書ニ連署セシムルハ體裁  
ヲ失セスマ判士ハ四人ナルヲ以テ其意見ノ半數ニ分レタル時ニ當  
リ判士長之ヲ決ス可キモ理事ニシテ此ニ加ハルトキハ甚タ體裁ヲ  
失スル者ノ如シ幸ニ第六十五條ノ五字ヲ削除スル問題說ニ可決  
センコトヲ望ム

○四十八番 村田保 本官モ現問題ニ同意スル能ハス某議官ハ理事ノ軍  
法會議ニ出席スルハ要用ナラサル如ク論スレトモ決シテ然ラス第

八條ニ據ルニ「軍法會議ニハ判士長判士理事理事補ヲ置ク」ト言ハ  
ル明文ヲ存ス故ニ理事ノ判決書ニ署名捺印セサル可ラサルハ賭易  
キノ道理ナリ若シ理事ニシテ加列セサレハ判決ヲ爲ス能ハサル可  
シ抑モ普通治罪法ニ據リテ之ヲ論スレハ實ニ妥當ヲ失セルノ太甚  
ナル者ニシテ泰西各國ノ例ニ照スモ本案ノ理事ノ如ク檢察官ト豫  
審判事トノ職掌ヲ兼ヌルハ無カル可シ然レトモ斯ク妥當ヲ失セル  
ニ拘ラス改正ヲ爲スナレハ本官ハ原案ニ從フノ可ナルヲ信スルナ  
リ

○三十三番 井田讓 本官モ現問題ニハ左袒セス抑モ理事ノ軍法會議ニ  
必要ナルハ四十八番ノ論セシ如ク第八條ニ之ヲ明掲ス然ルニ發議  
者及ヒ贊成者ハ第九條ニ載スル表ヲ以テ判士ノ組織ヲ定メタル者

ノ如ク思惟シテ喋辨スレトモ前後ヲ熟觀セハ斯ノ如キ疑惑ヲ起ササル可シ第九條ニ載スル表ハ軍法會議ニ出席スル武官ノ員數ヲ掲ケ此表ニ照シテ判士長判士ヲ更換スルコトヲ示セルナリ假令此表ニ理事ヲ除ケルモ決シテ此ヲ以テ理事ノ判決書ニ署名捺印ス可ラサル理由ト爲スニ足ラス然ルニ發議者賛成者ノ此表ヨリ理事ノ文字ヲ除去セルニ拘泥シテ立論セルハ實ニ大早計ノ見解ト謂フ可シ

○六十一番 安場保和 本官ハ沈黙ヲ守リ起立ヲ以テ意見ヲ表セント欲セシモ只今ノ三十三番ノ發言ト過刻ノ内閣委員ノ説明トハ相ヒ齟齬セル如クナルヲ以テ聊カ本官ノ意見ヲ陳セントス夫レ理事ノ軍法會議ニ必要ナルハ第八條ニ據リテ之ヲ解スルヲ得ヘク又本案ハ第五十六條ヲ軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士理事各其席ニ着キ

タル後云云ト改正シ又第六十九條ヲ宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士理事錄事法廷ニ臨ミ云云ト改正スルニ在レハ理事ハ俗諺ニ日蔭者ト云フ如キ地位ニ非サルハ亦之ヲ解スルヲ得ヘケレトモ現行法ニ於テハ彼レ第九條ノ表中ニ加ヘタリシニ今回ハ之ヲ除去シ軍人ノミヲ以テ判士長判士ヲ組織スル以上ハ單ニ其職員ノ更換ヲ示セシノミナラス理事ヲ判士ノ員内ヨリ除去セルヤ明白ナリ故ニ三十三番ノ更換云云ト辨シタルハ反對論者ヲ攻撃セン爲メニ發セシ言ナル可シ本官ノ見ル所ヲ以テスレハ第九條ノ判士ノ員内ヨリ理事ヲ除去セルヲ以テスルモ第六十五條ノ場合ニ於テ理事ニ署名捺印セシムルノ不可ナルヲ信ス故ニ本官ハ六十六番ニ同意スルナリ

○五番 三浦安

本官ハ素ヨリ現問題ニ左袒ス某議官ハ第八條ニ理事ノ軍法會議ニ干與セルコトヲ明示セルヲ以テ第六十五條ノ場合ニモ判決書ニ署名捺印ス可シト云フモ本官ノ見ル所ハ之ニ異ナリ軍法會議ヲ開クニ當リテ理事ノ出席ヲ要スルハ第八條ノ如クナル可キモ判士ト理事トノ職掌ノ異ナレルハ其官名ノ字面ヲ見ルモ之ヲ知ルヲ得ン判士ニモ非ス録事ニモ非サル理事ニシテ判決書ニ署名捺印ス可キ理由ヲ檢出スル能ハス抑モ本案ハ判然ニ理事ヲ判士ノ員内ヨリ除去スル精神ナルヲ以テ第六十五條ニハ理事ノ文字ヲ加ヘサルヲ妥當ナリト信ス

退席

六十三番 高崎 五六

○三十三番 井田讓

只今理事ト判士トノ職掌相異ナリトスル一點ヨリ

駁論スレトモ是レ軍法會議ノ組織ニ着眼セサルノ致セル所ナルノミ到底理事ハ判決ニ加ハル可キ者ニシテ第五十六條ニ「軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士理事各其席ニ着キタル後判士長被告人ヲ出廷セシメ之ヲ訊問シ若クハ判士ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ」トノ明文ヲ存セルヲ以テスルモ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ強チニ理事ト言ヒ判士ト言フノ字面ヲ以テ其職任ヲ區別ス可ラス過刻以來陳述セル如ク第九條ノ表ハ判士長判士ノ更換ヲ示セル者ニシテ決シテ今回此表ヨリ理事ヲ除去シタルヲ以テ理事ハ判決ニ加ハル可ラストスル如キ臆斷ヲ下ス可ラサルナリ

○六十六番 尾崎三良 尙ホ一言セン

○議長 時既ニ午後第一時半ニ達セリ午餐ノ爲メニ一旦散會セン



午後一時三十分閉場

午後第二時開場

退席

一番

田中 芳男

同

五十二番

野村 素介

同

三十九番

町田 久成

○議長

東久世  
通禧

午前ノ續會ヲ開ク

○六十六番

尾崎  
三真

第六十五條ヲ削除スル本官ノ修正說ハ幸ニ數多ノ

贊成者ヲ得タリ然ルニ某議官ノ駁論ハ本官ノ旨趣ヲ誤解セルニ似  
タレハ尙ホ一言セサルヲ得ス本官ハ初メヨリ軍法會議ハ判士判士  
長ヲ以テ組織スル者ト確信セシニ某議官ハ第八條ノ明文ニ理事ヲ

載スルヲ以テ理事モ判士ト同シク判決權ヲ有スト明言セリ果シテ  
然ラハ錄事モ判決權ヲ有スト謂フ可キカ豈此理アラシヤ只今現行  
法ヲ携帶セサル議官モアル可ケレハ試ミニ之ヲ朗讀センニ現行法  
第八條ニ曰ク軍法會議ニハ判士長判士理事理事補審事審事補錄事  
ヲ置クト而シテ此改正案ニハ審事審事補ヲ削除シ判士ト理事トヲ  
列掲シ理事ハ判決書ニ署名スル者ト爲セリ然レトモ此カ爲メニ判  
決權ヲ有スト云フハ誤解ノ甚シキナリ例ヘハ元老院ノ議場ハ議官  
ト書記官トヲ以テ成立スト雖モ其議事ニハ書記官ノ參與セサルカ  
如ク即チ判士ト理事トハ其名稱ニ表スル如ク其職掌自ラ殊別ナリ  
且ヤ內閣委員モ軍法會議ノ理事ハ恰モ普通治罪法ニ於ル豫審判事  
ト檢事トノ職掌ニ兼任セル者ノ如ク判士ノ位地トハ全ク別格ナリ

ト云ヘルニ非スヤ若シ理事モ判決權ヲ有スト爲サハ必ス此法制ノ全體ヲ改更セサル可ラス

○六十番 鶴田

本官モ尙ホ一辨セン思フニ理事ノ軍法會議ニ列坐スルハ判士ノ資格ヲ有スルニ由ルニ非ス又書記ノ事務ヲ執ルニ由ルニ非ス凡ソ裁判ニハ民事刑事ヲ論セス原被兩造ヲ具フルヲ通則ト爲ス然リ而シテ陸軍治罪法ニ審事理事ヲ置クハ普通治罪法ニ檢察官ヲ置ク如ク恰モ原告者ノ狀ヲ爲ス又其審事補理事補ナル者ハ該官ノ職務ヲ補助スルノミ而シテ本案ニハ審事ヲ削除シタルニ因リ爾後理事ハ審事ノ資格ヲ以テ裁判席ニ列坐セントス是レ普通治罪法ノ檢察ト略ホ似タリ從來理事ハ犯罪事件ヲ審問シテ審事ニ報道スル者ナレハ普通治罪法ノ豫審判事ノ職任ニ同シク全ク佛國ノ

「ア」ストリクシヨシノ地位ニ相當ス豫審判事ハ判事ノ名稱ヲ帶ルモ其實ハ檢察官ナリ理事モ亦此ト同シク檢察官ノ資格ト目的トヲ以テ自己ノ意見ヲ陳白スル者ナリ然レハ則チ決シテ判士ト共ニ判決書ニ署名捺印セシム可キニ非ス或ハ第八條ニ理事ト判士トヲ列揭スルハ不倫ニ似タリト云ハンモ是レ皮相ノ見解ノミ元來錄事ノ專ヲ記録事務ヲ掌リ而シテ理事ハ檢察官ノ職任ヲ以テ裁判席ヲ組織スルナリ凡ソ裁判席ニハ必ス檢察官ノ資格ヲ有スル者ノ立會フ無カル可ラス若シ之レ無ケレハ裁判席ノ組織ハ完全ヲ缺カン是レ第八條ニ理事ヲ掲ル所以ニシテ理事ノ裁判席ニ列坐スルハ所謂立會人ナレハ必ス其列坐スルヲ要ス但タ理事ヲシテ判決書ニ連署セシムルハ無要ナリト信ス何トナレハ判決書ニハ檢察官ノ干涉ス可

キニ非サレハナリ

○十一番 伊丹重賢 本官ハ現問題ヲ賛成ス發議者賛成者ノ十分ニ陳辨セ  
ルニ因テ旨意既ニ明白ナルモ猶ホ一言ヲ補述セン反對論者ハ改正  
案ノ表中ニ理事ヲ掲ケサルヲ以テ理事ヲ判士ノ員内ヨリ除却セリ  
トハ斷定ス可ラスト云ヘリ本官ハ必スシモ表面ニ掲クルト否トニ  
拘泥スルニ非サルモ現行法ノ如ク表面ニ判士ト同シク理事ノ名稱  
ヲ掲クルスラ第六十五條ノ場合ニ理事ノ連署ヲ要セサリシニ非ス  
ヤ即チ現行法ノ成文ニモ「署名捺印シ判士長之ヲ理事ニ交付ス」ト  
言ヘリ是ニ由テ之ヲ觀ルモ理事ハ判決書ニ連署スルヲ要スルニ非  
サルヤ明白ナリトス若シ理事モ連署ス可シト爲サハ自己ノ連署セ  
シ判決書ヲ再ヒ自己ニ收受スル者ニシテ事體甚々宜シキヲ得ス要

スルニ現行法ノ如ク判士ト同ク理事ヲ掲クルスヲ猶且此ノ如シ況  
シヤ改正案ノ表面ニハ見ニ既ニ理事ヲ除却セルヲヤ

○二十二番 柴原和

前キニ二十九番ノ動議ノ問題ニ上ホリシトキ之ヲ

非認スル意見ヲ陳シ即チ其說ノ如ク第六十五條第六十九條ニ理事  
ヲ除クヲ要セハ何ノ故ニ第五十六條ヲ改修セサルヤ第五十六條ニ  
ハ理事ノ文字ヲ存シ第六十五條第六十九條ニ之ヲ削ルハ偏頗ノ修  
正ナルコトヲ述ヘタリ現問題ハ單ニ第六十五條ノ理事ノ文字ヲ  
削ルナレハ甚シキ偏頗ニ陷ラス故ニ熱心ニ抗論セサレトモ本官ハ  
依然トシテ原案ヲ維持スルナリ然ルニ六十番ノ辨明ハ大ヒニ各官  
ヲシテ現問題ニ傾向セシムル勢力ヲ有セルニ似タレハ一言之ヲ辨  
排セサル可ラス此改正案第九條ノ表中ニ理事ヲ除キタルモ現行法

ニハ理事ヲ判士ノ中ニ列シ以テ判決權ニ干涉セシメタリ元來陸海軍治罪法ハ普通治罪法ト異ニシテ特ニ理事ヲ置キ以テ檢察ノ職任ヲ掌リ且常ニ判決權ニ干涉セシム思フニ判決ヲ下スハ素ヨリ判士ノ權内ニ屬ス可キモ此ニ與リテカラ有ルハ理事ナリ故ニ第八條ニ理事ヲ列掲セリ然ルヲ結局タル判決書ニ連署捺印スルヲ得サレハ是レ猶ホ眼ヲ畫キテ睛ヲ點セサルカ如シ某議官ハ理事既ニ判決權ヲ有セサルトキハ之ヲシテ署名捺印セシムルハ徒贅ニ屬スト云フモ本官ハ理事ノ署名捺印スルヲ徒贅ト看做サス縱令自己ノ署名捺印セシ判決書ヲ自己ニ收受スルハ少シク體裁ヲ失スルヤヲ知ラサルモ軍法會議ハ本ト普通法ニ同シカラス古語ニ將軍ハ閫外ニ在テハ君命モ受ケサル所アリト云ヘル如ク臨戰合圍ノ地ニ於テハ專決

タモ猶之ヲ許スナレハ決シテ普通法ト異ナルヲ論據ト爲シ以テ軍法會議ノ處分ヲ駁難ス可キニ非ス又理事ハ時ニ或ハ現行犯ヲ告發スルヲ以テ原告者タル看ヲ爲スト雖モ箇ハ是レ明文ニ掲クル如ク陸軍檢察官ノ職務ニ屬シ彼レ常ニ原告者タル地位ニ立ツニ非ス乃チ判士ヲ助ケテ裁判事務ニ干與スル者タルヤ明瞭ナリ之ヲ要スルニ理事ハ判士ノ如ク直接ニ犯罪者ヲ裁判セサルモ軍法會議ニ此レ無ケレハ其體裁ヲ成サス是レ普通治罪法ト異ナル所以ナリ故ニ體面ノ殊異ナルヲ訝ラス實際ノ便益ヲ量リ理事ヲシテ判決書ニ連署セシムルヲ可トス

○二十八番 津田眞道 本官ハ午前ニ原案ヲ賛成シ二十九番ノ動議ニ同意セサリシモ尙ホ六十六番ノ動議ヲ熟考シテ其寧ろ原案ヨリモ可ナ

ルヲ知レリ判士ハ裁判官ニシテ理事ハ檢察官ノ職任ヲ帶ル者ト爲セハ理事ノ判決書ニ署名捺印スルハ不倫ニ似タリ顧フニ普通治罪法ニ於テハ檢事先ツ犯罪者ヲ告發シ判事ニ其裁判ヲ請求スルナレハ陸軍治罪法ニ於テモ亦當サニ此ノ如クナルヘク普通治罪法陸軍治罪法共ニ其順序ヲ同ウスレハ理事ヲシテ裁判ニ列席セシムルハ固ヨリ普通治罪法ノ如クス可キモ之ヲシテ判決書ニ署名捺印セシムルハ失當ナリト謂ハサルヲ得ス

○四十八番 村田保

各官往往ニ普通治罪法ヲ援キテ原案ノ非ナルヲ論スルモ是レ恐クハ反對ノ引證ナラン普通治罪法ヲ援クトキハ愈ヨ原案ノ正當ナルヲ襯出スルニ似タリ看ヨ普通治罪法第三百十四條ニハ意見ヲ陳述セシ檢察官ノ姓名ヲ裁判言渡書ニ掲ク可キコトヲ

言ヘリ是ニ縁テ之ヲ考フルモ若シ第六十五條ノ場合ニ理事ノ干涉スルヲ除却セハ何人ノ其裁判ニ關與シタルヤヲ知ル可ラス然レハ則チ普通治罪法ヲ根據ト爲セハ反テ原案ヲ是認ス可キニ此ヲ以テ第六十五條ノ場合ニ理事ヲ除却スル引證ト爲スハ寧口刺謬ニ非サル無キヲ得ンヤ

○二十九番 橋口兼三

本官ノ午前ニ提出セシ修正說ハ消滅セシモ幸ニ現問題ナル六十六番ノ動議ハ幾ント本官ノ心ヲ獲タル者ナリ理事ニシテ判決書ニ署名捺印スルハ斷シテ不可ナリトス且其權限モ判士ト理事ト素ヨリ殊ナレハ互ヒニ侵蝕スルヲ得ス縱令ヒ法庭ニ列スルモ判決書ニ連署捺印ス可ラサルハ明白ナリ普通治罪法ニ據レハ檢察官ハ原告ノ地位ニ在テ裁判官ノ判決ヲ非ト認ムルトキハ其意

見ヲ主張ス故ヲ以テ列席ヲ要スルハ當然ナルモ此カ爲メニ判決書ニ連署捺印ス可シト云フハ理事解ス可ラス本官ハ獨リ第六十五條ノミニ止マラス第六十九條ノ場合ニモ理事ノ署名捺印スルヲ要セスト確信ス願フニ政府ノ今回ノ大改革ハ煩ヲ去リ要ヲ務ムルニ在レハ本案ノ改正モ蓋シ此ニ出ルナル可シ然ルニ第六十五條第六十九條等ニ理事ノ文字ヲ加フルハ寧ロ甚タ簡約ノ旨趣ニ背カン抑モ理事ノ職務タル現行法ニ據レハ司令官ノ下付スル事件ヲ承ケテ之ヲ審事ニ交付シ會議ノ日時ヲ定ムル命令ヲ請フ等ニ在リ然ルヲ若シ本案ニ從ヘハ理事ハ審事理事ノ兩職ヲ兼ヌル者ニシテ尤モ煩劇ナリ且既ニ云フ如ク理事ハ豫審判事ノ資格ニ當ル者ト爲セハ其ヲシテ署名捺印セシムルモ果シテ何ノ利益カ之レ有ラン徒ニ煩雜ヲ

増スノミニ且夫レ判士長ヨリ判決書ヲ上申スルモ陸軍大臣ニシテ不當ナリト認メハ覆審ヲ命スルヲ定法ト爲ス然レハ則チ理事ハ上告ヲ爲ス可キニ非ス其無用ノ事件ニ關涉センヨリ寧ロ本分ノ職務ニ奉事スルヲ善シトス是レ實ニ煩ヲ省クノ一方ナリ要スルニ理事ノ軍法會議ニ列席スルハ判士長及ヒ判士ノ尋問ニ應シ或ハ再審ヲ行フ爲メナレハ第六十五條ノ場合ニ在テハ問題說ノ如ク之ヲ削除スルヲ可トス因テ午前ノ自說ヲ反覆シテ大ヒニ六十六番ヲ贊成ス

○五番<sup>三補安</sup> 四十八番ハ普通治罪法第三百十四條ノ成文ヲ朗讀セリ今一回其朗讀ヲ煩サン本官ハ該條ニハ裁判ニ檢事ノ列席スルコトヲ明揭セルモ連署ノ一事ハ之レ無シト記憶ス何如シ

○四十八番<sup>村田保</sup> 然リ檢事ハ署名捺印セサルモ其姓名ハ判決書ニ記

載スルナリ本官ノ旨意ハ普通治罪法ニ於テハ第三十五條ニ示ス如ク檢察官一名裁判ニ列席シ且判決書ニ其姓名ヲ記載スルニ軍法會議ニ於テ裁判ニ關與セル理事ノ姓名ヲ判決書ニ掲ケサレハ原告者ノ何人ナルヤヲ知ル能ハスト云フニ在リ故ニ普通治罪法ヲ引證セハ愈ヨ原案ヲ賛成ス可キニ却テ反對ニ出ルヲ怪訝セルノミ

○五番<sup>三浦安</sup>

領會ス本條ノ場合ニ理事ノ連署捺印スルハ決シテ陪席檢事ノ姓名ヲ記載スルト同シカラス即チ理事ノ判決權ニ關與スルヲ謂フ故ニ不可ト爲スナリ此ノ如ク議論紛籍セハ或ハ根本ノ意義ヲ失シテ枝葉ヲ爭フノ恐レ有リ因テ內閣委員ニ質問シテ其意義ヲ確定セン本條ノ場合ハ恰モ普通法ニ陪席檢事ノ姓名ヲ判決書ニ記載スルト同一ナルカ抑モ本官ノ解スル如ク判決權ニ干與スルカ

○一番<sup>周布外</sup>

本條ノ場合ニ於テ理事ノ判決書ニ連署スルハ現行法ニ於テ理事ノ判士ノ數中ニ列スルト異ナリ即チ終始理事ノ裁判ニ關與スルコトヲ明示センカ爲メニス普通治罪法ノ檢察官ノ地位トハ固ヨリ小異ヲ存スルナリ

○五番<sup>三浦安</sup>

內閣委員ノ答辨ヲ以テスレハ單ニ裁判ニ陪席セシコトヲ明示スルノミニシテ普通治罪法ノ檢察官ノ地位トハ少シク異ナリト云ヘリ然レトモ本案ノ文面ニ據テ之ヲ考フレハ理事ノ判決權ニ關與スルヲ以テ判決書ニ連署スル者ノ如ク朝來ノ紛論ハ即チ此一點ニ在ルナリ然レトモ只今ノ答辨ノ如ク理事ハ只陪席スルノミニシテ判士ノ列ニ入ルニ非スト云ヘルハ其分解未タ明晰ナラス若シ內閣委員ニシテ理事ハ決シテ判決權ニ干渉セスト云ハハ本官更

ニ思考ヲ下ス有ラントス因テ尙ホ一辨ヲ煩ハス

○外一番周布 理事ハ判決權ニ于涉スルヤ否ヤヲ云ヘハ干涉セスト答ヘテ可ナリ此改正案ハ第九條ノ表ニ示セル如ク武官中ヨリ判士ヲ擇取ス故ニ理事ノ判決權ヲ有セサルハ明白ナリトス

○五番三浦 本官モ其然ル可キヲ信ス理事ヲシテ連署捺印セシムルトキハ左視右顧スルモ判決權ニ干涉セシムル者ニ似タリ然ルヲ連署捺印スルモ判決權ニ干涉セストハ何ニ由テ其區分ヲ證ス可キヤ本官ノ理會スル能ハサル所ナリ尙ホ一辨ヲ煩ハス

○外一番周布 理事ノ判決權ヲ有セサルハ第九條ノ表中ヨリ理事ヲ除却シタルヲ以テ之ヲ知ル可ク又第五十六條ニモ理事ノ判決權ヲ有スル明文ヲ掲ケサルヲ以テ明白ナリトス然レハ則チ何ヲ以テ理

事ノ判決書ニ署名捺印スルヲ要スルヤト云フニ陸軍治罪法ニ於テハ特別重要ノ職任ヲ有スル理事ナル者ノ終始裁判事務ニ關與スルヲ以テ特ニ判決書ニ署名捺印セシムルナリ錄事ノ如キハ判決權ヲ有セサルモ其職分ヨリシテ判決書ニ署名捺印スルニ非スヤ理事モ亦其職分ヨリシテ此ニ署名捺印スルノミ

○五番三浦 内閣委員ノ答辨ヲ得テ概子領會セリ判決權ヲ有セサル理事ニシテ判決書ニ署名捺印スルハ其無要ナルヤ知ル可シ現行法第八條ニハ審事審事補ヲ置キ而シテ審事審事補ハ判決書ニ連署捺印セス此改正案ニハ審事審事補ヲ廢シテ理事之ニ代レリ然レハ則チ理事ハ現行法ノ審事ノ如ク署名捺印セサルヲ適當ト爲ス顧フニ現行法ニ於テハ理事ハ判士ノ列ニ在リシモ改正案ニハ判士ノ列ヨ



リ除キテ純然ニ審事ノ職掌ニ任セシムルヲ以テ愈ヨ判士ヨリ相遠  
サカレリ其嘗テ判士ノ列ニ在リシヤ判士ノ分限ヲ以テ署名捺印セ  
シノミ決シテ理事ノ職掌ヲ以テ署名捺印セシニ非ス第六十五條ニ  
理事ノ文字ヲ削除ス可キ理由ハ此ノ如シ

○四十四番 大鳥圭介 本官ハ原案ヲ是認スルヲ以テ沈黙ヲ守リシモ各官  
中ニ紛議ヲ生シテ底止スル無キニ似タレハ一言之ヲ辨セサルヲ得  
ス十一番五番等ノ説ク所ハ本條ニハ理事ヲ不要ナリト云フモ是レ  
恐クハ誤解ナラン理事ハ自ラ判士ノ數中ニ在リ審事ノ如キハ單ニ  
豫審ヲ爲ス者ナレハ判決權ニ關與セサルハ論ヲ待タサレトモ理事  
ハ之ニ異ナレハ其必要ナルヤ知ル可シ本案第九條ノ表中ニ理事ヲ  
載セサルヲ以テ本條ニ理事ノ文字ヲ加フルハ要用缺ク可ラサルナ

リ

○十一番 伊丹重賢 四十四番ハ判士ノ中ニ理事ヲ包含スト云フ固ヨリ然

リ然レトモ是レ判士ノ職分ヲ以テ從事ス理事ノ職分ヲ以テ從事ス  
ルニ非ス然ルニ本條ハ理事ノ職分ヲ以テ署名捺印スルカ故ニ之ヲ  
非ナリト爲スナリ現行法ニハ審事ヲ置キ豫審判事ノ職掌ヲ行ハシ  
メタルモ今之ヲ廢スルトキハ理事ハ則チ其檢察官ト豫審判事トノ  
職分ヲ兼ヌル者ノ如シ然レハ則チ其職分ハ從前ノ理事ト異ニシテ  
判士ノ列ニ在テ判決權ヲ有スル者ニ非ス故ニ必ス現問題ノ如クセ  
サル可ラス

○議長 六十六番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ  
起立者十六人

○議長 少數ナルヲ以テ六十六番ノ修正説ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナクンハ可決ト認メ第二讀會ヲ畢ル午前ニ二十二番ノ建議セル如ク本日相續キテ第三讀會ヲ開クニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十八人

○議長 多數ナルヲ以テ直チニ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

布告案

陸軍治罪法中左ノ通加除改正ス

第八條審事審事補ノ五字ヲ削ル

第九條改正

軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官四名ヲ以テ判士トス但被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更換ス

判士長	判士	被告人
佐官 一名	大尉若クハ中尉 少尉	二名 陸海軍少尉准士官及ヒ同等ノ軍人軍屬
佐官 一名	大尉 中尉	二名 陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐若クハ中佐 一名	少佐 大尉	二名 陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐 一名	中佐 少佐	二名 陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
少將 一名	大佐 中佐	二名 陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	少將 大佐	二名 陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬

中將	一名	中將	二名	陸海軍少將及 同等ノ軍人軍屬
大將	一名	大將 中將	一名 三名	陸海軍中將及 同等ノ軍屬
大將	一名	大將 中將	二名 二名	陸海軍大將及 同等ノ軍屬

第十一條審事ノ二字ヲ削ル

第二十六條以下各條中審事ノ二字ヲ理事ニ改ム

第三十六條第一項改正

司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外審判ノ命令ヲ下シ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十七條第三十八條中審問ノ二字ヲ審判ニ改ム

第四十四條理事ヲ經テノ五字ヲ削ル

○二十五番眞村正直時機稍後レタレトモ内閣委員ニ質問ス從前下付議

案ノ布告式ハ皆奉勅旨布告候事ト有リシニ近日ハ奉勅ノ二字ヲ掲ケリ然ルニ本案ニハ是等ノ文字ヲモ記セス其理由ハ何如シ

○周布公平外一番質疑ノ一件ニ關シテハ本員モ即答スル能ハス本員ノ

攜帶セル奏案原書ニハ末尾ニ奉勅ノ二字ヲ掲ケ及ヒ總理大臣陸軍大臣ノ連署スル者ト爲セリ本院ヨリ各議官ニ配付セシ布告案ニハ之レ無キヤ元來本院ニ下付スル議案ニハ奉勅ノ二字ヲ記セサル可ラスト信スレトモ或ハ此ニ關シ内閣ト本院トノ間ニ通議セル有リテ然カシタルヤ若シ此事ヲ吃緊ト認メハ内閣ニ稟議シタル後ニ本院議長ニ通報セン

○議長 奏書原案トハ何物ヲ指スヤ

○外一番周布 即チ上奏セシ原案ニシテ内閣總理大臣及ヒ陸軍大臣ノ連署セル者ヲ謂フナリ

○二十五番榎村正直 議長ニ問フ今後ハ奉勅ノ二字ヲ記セサルヲ定規ト爲スヤ或ハ誤脱ニ係ルヤ

○議長 下付議案ニ奉勅ノ二字ヲ記セサルヲ以テ原書ニ從ヒシナリ誤脱シタルニ非ス此件ハ内閣ノ通牒ヲ俟テ各官ニ報知セン

○議長 他ニ發議ナクハ可決ト認メ次條ニ移ラン

書記官森山茂 朗讀

第五十三條改正

理事審問ニ於テ共犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタル時ハ直チニ之ヲ審問ス可シ但共犯ノ官等其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於

テ命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ係ル時ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十四條改正

理事審問ヲ終リ若クハ審問ヲ爲サスシテ直チニ判決ニ付ス可キ時ハ意見書ヲ作り會議ノ日時ヲ定メ訴訟文書ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ  
其事件不問ニ付ス可キモノハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十五條削除

第五十六條改正

軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士理事錄事各其席ニ著キタル後判士長被告人ヲ出廷セシメ之ヲ訊問シ若クハ判士ヲシテ其訊

問ヲ爲サシム可シ

第六十三條第二項第三項改正

法廷ニ於テ共犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ直チニ其裁判ヲ爲シ若クハ會議ヲ中止シ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但共犯ノ官等其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於テ命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ係ル時ハ判士長之ヲ司令官ニ具申スヘシ第六十五條第六十九條錄事ノ上理事ノ二字ヲ加フ

○議長 發議ナクハ可決ト認メ第三讀會ヲ畢ル例ニ遵ヒ可決ノ旨ヲ具シ上奏セン

○五番 三浦安 奉勅ノ二字ハ果シテ誤脱ナリヤ否ヲサルヤ其事ハ本院ノ體面ニ關係スルヲ以テ議長ノ速カニ内閣ニ通牒センコトヲ請フ

○四十一番 渡邊清 本官モ奉勅ノ二字ヲ記セサルヲ疑ヘリ恐クハ誤脱ナル可シ若シ然ラスシテ今後ノ下付議案ハ皆此體式ニ從フトナレハ本院ニ於テモ多少議論アラン且年月日ヲ附セサル如キハ其施行ノ遲速ニ大關係ヲ有スルヲ以テ是亦併セテ議長ヨリ内閣ニ照會センコトヲ請フ

○議長 本席モ誤脱ナラント思考ス内閣ニ照會シテ各官ニ通知セン本日ハ散會セヨ

午後第三時四十分閉場

本案ニ奉勅ノ文字ナキハ全ク誤脱ノ旨更ニ内閣ヨリ通牒アリ因テ之ヲ各議官ニ報告シ並ニ此ニ附記ス

元老院會議筆記 明治十九年二月二十六日  
 ○第五百六號議案 日本藥局 第一讀會  
 議長 東久世 通禮  
 出席議員  
 一番 田中 芳男  
 三番 長松 幹  
 四番 久我 通久  
 五番 三浦 安  
 七番 黑田 清綱  
 八番 安藤 則命  
 九番 田邊 太一

元老院會議筆記 明治十九年二月二十六日

○第五百六號議案 日本藥局 第一讀會

議長 東久世 通禮

出席議員

- 一番 田中 芳男
- 三番 長松 幹
- 四番 久我 通久
- 五番 三浦 安
- 七番 黑田 清綱
- 八番 安藤 則命
- 九番 田邊 太一

十番	大給	恒
十一番	伊丹	重賢
十二番	長岡	護美
十四番	岩下	方平
十六番	細川潤次郎	
十八番	宮本	小一
二十番	大久保一翁	
二十一番	林	友幸
二十二番	柴原	和
二十四番	何	禮之
二十五番	榎村	正直

二十七番	福原	實
二十八番	津田	真道
二十九番	橋口	兼三
三十番	渡邊	驥
三十一番	鍋島	幹
三十二番	海江田信義	
三十三番	井田	讓
三十四番	西村	貞陽
三十五番	永山	盛輝
三十六番	西	周
三十八番	壬生	基修

三十九番	町田	久成
四十一番	渡邊	清
四十二番	楫取	素彦
四十三番	上杉	茂憲
四十四番	大鳥	圭介
四十七番	鍋島	直彬
四十八番	村田	保
四十九番	神山	郡廉
五十番	河田	景與
五十一番	伊集院	兼寛
五十二番	野村	素介

五十三番	津田	出
五十四番	由利	公正
五十五番	中島	錫胤
五十七番	山口	尙芳
五十八番	宍戸	璣
六十番	鶴田	皓
六十三番	高崎	五六
六十五番	中村	弘毅
六十七番	原田	一道
六十九番	大迫	貞清
七十一番	伊東	祐賢



七十二番 加藤 弘之

内閣委員番外 法制局參事官 水野 遵

午前第十時二十五分開場

○議長 本日ハ第五百六號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

内務省ニ於テ制定シタル所ノ日本藥局方ヲ認可シ明治二十年一月一日以後醫療ノ藥劑ヲ取扱フ者ヲシテ之ヲ遵守セシム

奉勅

○番外水野 例ニ從ヒ本案ヲ發布スル理由ヲ略陳セン抑モ此藥局

方ハ明治十三年内務省ニ命シテ其編成ニ從事セシメシニ近日功ヲ

竣ヘテ内閣ニ上進セリ然ルニ此藥局方タル特種ノ者ニ屬シ布告案ニ於テ別冊ノ通制定ス等ノ常例ニ倣ヒ難シ故ニ布告案ニ掲クル如ク政府ハ只之ヲ法律ト認ムルニ止メントス又此藥局方ハ冊積甚々大ニ且一般ニ配布スルヲ要セス因テ主務省ニ於テ印刷ニ付シ必要ト認ムル箇所ニノミ配布セントス各官之ヲ諒シ議定アラシコトヲ請フ

○四十八番 村田 保 本案ニ對シ聊カ意見ヲ述ヘン方今本邦ノ醫術ハ日

ヲ逐テ開進スルモ未タ藥局方ノ制定ヲ見サルハ一大缺典ナリト思考セシニ今日本案ノ下付スルニ會フ是レ本官ノ深ク翹望セシ所ナレハ藥局方ノ發布ニ關シテハ素ヨリ之ヲ贊成ス然レトモ此布告案ニハ同意スル能ハス蓋シ内務省ハ法律ヲ制定スル權力ヲ有セサル

ニ本案ノ如ク「内務省ニ於テ制定シタル所ノ日本藥局方ヲ認可シ」云  
 ヤト言フハ恰モ法律制定ノ權力ヲ内務省ニ付與セルニ似テ甚々體  
 面ヲ失セン且夫レ元老院ハ議院衙門ニシテ法律ノ制定及ヒ改正ヲ  
 議定スト雖モ認可ハ行政ノ職事ニシテ元老院ノ關與スル所ニ非ス  
 然ルニ本案ニ於テ「認可シ」ト言ヘハ元老院ニ於テ其認可ノ是非ヲ論  
 セサルヲ得サルニ似タリ今之ヲ歐米諸國ノ制度ニ考フルニ此等ノ  
 成例アルヲ見ス唯タ普魯士國ノ千八百六十二年ノ藥局方ニ關スル  
 報告ハ少シク本案ト相似タリ即チ其文ヲ擧レハ本月三十一日其省  
 ノ申報ニ關シ「フアルマコペア、ボルツシカ、エヂチオセフチマ」普魯西  
 藥局方第七版ノ標名ヲ以テ伯林府樞密印刷所「デツケル」ノ發行スル  
 本國藥局方ノ新版ハ明年七月一日以後内科醫師外科醫師及ヒ藥劑

師并ニ官吏ニ對シテ其標準ト爲ルコトヲ認可シ且王國ノ全境ニ之  
 ヲ實行スル爲メ左ノ條件ヲ定ム但シ此條件ニ抵觸スル一切ノ制規  
 ハ總テ無効ニ歸スル者トスト因テ六項ノ法文ヲ定メ其第六項ニ於  
 テ此規則ニ違犯スル者ノ處罰ハ千八百四十六年十月五日第五號布  
 告（法律誌第五百九葉）ノ制規ニ隨フ可キヲ言ヘリ然リ而シテ此報  
 告文中ニ認可ト言ヘルハ本案ト異ナリ即チ醫務卿ノ定ムル所ニ違  
 ヒ藥劑師等ノ粗惡ナル藥品ヲ估賣スル有レハ千八百四十六年ノ法  
 律ニ照シテ處分スル者ニシテ「ウヰルヘルム帝フオンシユルレル」  
 之ニ親署シ以テ文部教部醫務卿ヲ指署ス此行文ハ甚々簡短ニシテ  
 獨逸國ノ法律發布定式ニ據リ上下兩院ノ認許ヲ以テ發布スト云フ  
 ノ辭句ヲ掲ケス是レ其議院ノ決議ヲ經由セサルヤ明カナリ佛蘭西

英吉利兩國モ藥局方ハ總テ醫務省ニ委任シ議院ノ決議ニ經由セス  
米利堅ノ如キモ藥局方ハ他ノ法律規則ニ異ナリ即チ千八百十七年  
一月「ドクトル、リーマン、スバルヂング」ノ新約克州醫會ニ提出セシ  
藥局方ヲ認可シ卷首ニ醫學ノ沿革史ヲ附載ス此ノ如ク藥局方ハ大  
抵任放主義ニ付セリ是レ蓋シ藥局方ハ時時ニ變更ス可キ者ニシテ  
永ク一定ニ出ルヲ得サルニ由ルナリ現ニ英吉利佛蘭西ハ共ニ客歲  
ヲ以テ改正ヲ加ヘリ其レ此ノ如シ故ニ藥局方ニ關スル布告ハ務メ  
テ簡便ノ方式ニ從ハサル可ラス本案ノ如キ或ハ歐米ニ行フ簡便ノ  
方式ニ倣ヘルヤヲ知ラサレトモ此藥局方ノ緒言ヲ觀ルモ吾カ政府  
ハ明治十三年ニ委員ヲ設ケテ藥局方ヲ編成セシムトノ明文ヲ載ス  
ルニ此布告案ニ依レハ內務省ニ於テ制定セシ者ニシテ相ヒ背反ス

ルニ似タリ是レ本官ノ同意スル能ハサル所以ナリ又疑點ヲ擧レハ  
本案中ノ「醫療ノ藥劑ヲ取扱フ者」ト言ヘルニ在リ顧フニ原語「アポ  
テーク」即チ調藥師ノ藥局方ヲ遵奉スルハ固ヨリ當然ナリト雖モ  
「取扱フ者」ト言ヘハ藥種商醫師賣藥營業者モ總テ包含スルニ似タ  
リ本案ノ「取扱フ者」トハ單ニ調藥師ヲ指スカ或ハ廣ク藥品ヲ取扱  
フ者ヲ包含スルカ其説明ヲ煩サン且凡ツ法令ヲ布クトキハ必ス罰  
則ヲ具スルヲ以テ恒例ト爲スニ本案ニ之レ無キハ何如シ此藥局方  
第一章ノ第二表第三表ニ係ル違犯ノ如キ固ヨリ處罰セサル可ラス  
刑法第二百五十四條第四百二十六條ノ處罰ハ此違犯ニ適施シ難キ  
ニ似タリ本案ノ爲メニ別ニ罰法ヲ定ムルヤ又十三年ニ發布シタル  
藥品取扱規則ハ本案ト並存セシムルヤ或ハ本案ヲ發布スルト同時

ニ之ヲ廢スルヤ併セテ答辨ヲ煩ハス

○外一番水野 第一問ノ「取扱フ者」トハ「アポテーキ」即チ調薬師ヲ謂

フト雖モ奈何セン我邦ノ如キ藥品ヲ調劑スル者ハ獨リ調薬師ノミ  
ナラス醫師藥種高等皆調劑スルヲ以テ已ムヲ得ス其區域ヲ廣濶ニ  
シ凡テ藥品ヲ取扱フ者ヲ包括セシメタリ第二問ノ事項ニ關シテハ  
不日主務省ヨリ藥舖取締規則ヲ發布スト聞ケハ蓋シ此ヲ以テ違犯  
者ヲ處分スルナル可シ第三問ニ至テハ藥局方ハ分量等ヲ定ムル者  
ニシテ藥品取扱規則ト相ヒ關係セサルナリ

○四十八番村田 第一問第二問ニ對スル答辨ハ之ヲ領ス然ルニ第三

問ニ對シ取扱規則ト本案トハ關係スル無シト云フハ未タ解スル能  
ハス藥品取扱規則ニハ毒藥ト劇藥トノ區別ヲ指示シ本案ニモ亦之

ヲ明示ス試ミニ彼此ヲ對比スルニ其區別ニハ差違ヲ存シ即チ藥品  
取扱規則第七條以下第二類第三類ニ劇藥毒藥ヲ明示シ藥局方第二  
表第三表ニ劇藥毒藥ヲ明示ス然ルニ藥品取扱規則ニハ「カンタリヂ  
―子」「クラ―レ」「ニコチ子」「ヂキタリ子」「ナルセ―子」「ブルシ子」「コニ  
―子」「アコニチ子」「青酸汞等ヲ毒藥ノ中ニ掲ケシモ藥局方ニハ之ヲ  
毒藥ノ中ヨリ除キ巴豆油ハ劇藥ノ中ニ在リシヲ毒藥ノ部ニ入レ從  
前ノ注意藥ナル印度大麻、吐根等ヲ劇藥ニ入レ又從前ノ毒藥ナル古  
堊乙涅、黃色沃度化汞等モ亦之ヲ劇藥ニ入レシ等其改換一ニシテ足  
ラス藥品ヲ取扱フ者ハ孰レニ從フテ可ナルヤニ惑ヒ以テ政府ノ調  
査ニ疎漏ナルヲ誹議セントス且ヤ藥品取扱規則ニハ罰則ヲ明掲ス  
故ニ藥局方ニ從ヘハ或ハ罰責ヲ受ルヤノ恐レ有リ歐米各國ニ於テ

モ藥品ノ區別ハ時時ニ變更シ前ニ劇藥ト認メシ者ヲ後ニ毒藥ト爲スコト有ルモ其改正ヲ發布スル毎ニ必ス前藥局方ヲ廢止スルヲ常トス然ルニ此藥局方ヲ藥品取扱規則ニ關係セスト爲シ依然兩存セシムルトキハ是レ人民ヲ迷誤セシムルナリ敢テ其説明ヲ請フ

出席

十九番

楠本 正隆

○番一 水野 野 本員ノ答辨簡短ニ過キ四十八番ノ疑惑ヲ來セリ因テ外 遵 更ニ前意ヲ悉サン十三年ノ藥品取扱規則ハ藥品ヲ取扱フ方法ヲ示シ本案ハ分量等ヲ示ス者ナレハ其性質ニ於テ業已ニ差異ヲ存ス前キニ陳辨セシ如ク主務省ヨリ藥舖取締條例ヲ發布スルニ至レハ藥品取扱規則ト背反スル者ヲ改正スルナル可シ蓋シ此藥局方ヲ頒布スルト同時ニ藥品取扱規則ヲ改正スルハ事急ニシテ能ハサル所ナ

リ

○四十八番 保村 田

内閣委員ハ藥品取扱規則ト藥局方ト關係セスト辨スルモ是レ決シテ然ラス試ミニ藥局方ヲ一讀セヨ單ニ藥品ノ分量ノミヲ指示セルニ非ス即チ第一表ニハ藥局ニ貯藏スルヲ要スル藥品ヲ揭示シ第二表ニハ他ノ藥品ト區別シテ鎖閉セル場所ニ貯藏ス可キ猛烈ナル毒藥品ヲ揭示シ第三表ニハ他ノ藥品ト區別シ注意シテ貯藏ス可キ劇藥ヲ揭示シ第四表ニ至リテ始メテ分量等ヲ揭示シ醫師ノ指揮ニ依ラサレハ其分量ヲ超エテ處方スルヲ許ササルヲ明告ス是ニ由テ之ヲ觀レハ決シテ相ヒ關係セスト謂フヲ得ス請フ彼此ヲ對照シテ答辨ヲ與ヘンコトヲ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ハ此ニ終ル

○番一外番水野 本案ハ主務省ニ於テモ速カニ發布スルヲ要スレハ引續キ第二讀會ヲ開カンコトヲ請求ス

○議長 内閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十二人

○議長 多數ナルヲ以テ直チニ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

布告案

内務省ニ於テ制定シタル所ノ日本藥局方ヲ認可シ明治二十年一月一日以後醫療ノ藥劑ヲ取扱フ者ヲシテ之ヲ遵守セシム

奉勅

○四十八番 村田 保 本官ハ過刻更ニ内閣委員ニ説明ヲ請ヒシニ其答辨

ヲ得ス而シテ議長ハ第一讀會ヲ終ルヲ演告セリ内閣委員ハ藥品取扱規則ト藥局方ト性質ヲ異ニスト云ヒ本官ハ然ラスト云フ此點ニ關シテハ内閣委員ハ本官ニ對シテ答辨スル能ハサル者ト認メリ因テ已ムヲ得ス本官ノ意見ヲ以テ本案ヲ修正セン歐洲中獨逸ノ例ニ依ルモ藥局方ヲ改正スルトキハ必ス從前ノ藥局方中ニ於テ抵觸ヲ致ス者ヲ廢止ス故ニ此藥局方モ之ニ倣ヒ尙他ニ修正ス可キ各點ハ「認可」及ヒ「取扱」等ノ文字ヲ除去セントスルニ在リ其修正文案ハ内務省ニ於テ撰定セシメタル日本藥局方ハ明治二十年一月一日ヨリ施行ス但此成規ニ抵觸スル從前ノ規則ハ廢止スト爲ス是レナリ撰定ノ文字ハ既ニ藥局方ノ緒言ニ之ヲ用ヒ且撰定セシムト爲スヲ實際ニ適合セリト信ス若シ文字ノ妥當ナラサル有ラハ改修スルモ

可ナリ願クハ各官ノ此旨意ヲ賛成センコトヲ

○七十二番加藤弘之 本官ハ「撰定セシメタル」ト改ムルヨリ「撰定シタル」

ト爲スヲ可トス然レトモ撰定ト云ヒ制定ト云フモ大ナル差違ヲ見サレハ寧ロ草定ト爲スニ如カス

○議長 七十二番ハ修正説ヲ賛成スルニ非スシテ別説ヲ述ヘント欲セハ姑ク發言ヲ止メヨ

○二十五番榎村正直 藥品取扱規則ト藥局方トノ關係ノ何如ハ内閣委員ノ明辨スル無キヲ以テ姑ク四十八番ノ修正説ヲ賛成ス猶ホ其文字上ニ係ル良修正説アレハ更ニ之ニ從ハンノミ

○議長 四十八番ノ修正説ハ賛成者アリ問題ト爲ス試ミニ書記官ヲシテ其修正文案ヲ朗讀セシメン

書記官森山茂 朗讀

内務省ニ於テ撰定セシメタル日本藥局方ハ明治二十年一月一日ヨリ施行ス但此成規ニ抵觸スル從前ノ規則ハ廢止ス

○議長 七十二番發言シテ可ナリ

○七十二番加藤弘之 現修正文案ノ「撰定セシメタル」ト云フヲ改メテ「草定シタル」ト爲サントス其他ハ皆四十八番ニ同意ス且本官ハ更ニ但書ヲ附セント欲スルモ現修正文案既ニ但書ヲ附シ文體其宜キヲ缺クヲ以テ現修正文案ノ但書ヲ本文ノ中ニ入レント要ス顧フニ漢方醫ノ使用スル藥品ハ洋方醫ノ使用スル藥品ノ如ク劇烈ナル者ニ非サレハ事ニ於テ大害ヲ致ス無ル可キモ法律上漢方藥品ヲ不問ニ置クハ事體當ヲ得ス故ニ漢方家ノ用藥ハ此例ニ非スト云ヘル如キ但

書ヲ附セサル可ラス否ヲサレハ此藥局方ハ一部ヲ示シテ一部ヲ遺スナリ現ニ漢方醫ヲ公許スル以上ハ必ス此用意無カル可ラス即チ内務省ニ於テ草定シタル所ノ日本藥局方ヲ認可シ明治二十年一月一日以後之ヲ遵守セシム尤モ之ニ抵觸スル者ハ廢止ス但シ漢方藥ハ此例ニ非スト云ヘル如キ意味ヲ以テ修正セント欲スルナリ又此藥局方ノ當否ニ至テハ醫學士製藥學士ニ非サレハ甄別スル能ハスト雖モ此藥局方ノ表中ニ分量及ヒ異重ヲ示スニ數字ヲ兩様ニ用ヒシハ體面宜シキヲ得ス今其一端ヲ舉レハ藥局方中ノ混和ノ調製ヲ示スニハ十七分又ハ八十三分ト言ヒ第五表ノ藥物ノ異重ヲ示スニハ一〇四八ト言ヒ第六表ノ原子量ヲ示スニモ亦此例ヲ用井タリ此ノ如ク彼此異同アルハ體裁ヲ得サレハ總テ一定ニ歸セシメント欲

ス之ヲ要スルニ寧ロ一〇四八ト言ヘル如キ西洋數字ノ用法ニ倣フヲ可トス

○議長 七十二番ニ告ク藥局方ハ内閣ヨリ唯參照ノ爲メニ廻付シタル者ニシテ布告案ノ如ク議題ニ上ス可キ者ニ非スト知ル可シ且四十八番ノ修正說ハ方サニ問題ニ在レハ之ヲ決スルヲ俟テ更ニ修正說ヲ提出シテ可ナリ

○二十二番 柴原和 本官ハ未タ藥局方ヲ熟覽スルニ暇アラサリシカ四十八番ハ詳密ニ調査シテ内閣委員ニ質問セリ其言ノ如ク「制定」ハ撰定ニ改ムルニ如カス劇藥毒藥ノ區別ニ關シテ藥品取扱規則ト藥局方ト反對ヲ見ル如キモ但書ニ因テ之ヲ防クヲ得シ只其内務省ニ於テ撰定セシメタルト云フハ行文妥當ナラス上句ニ於テト言ヘハ



下ニ撰定シタルト承クルヲ適當ト爲ス又單ニ一月一日ヨリ施行ス  
ト言ヘハ一般ニ關涉シテ調藥師ノミニ限ラサルノ支障ヲ生ス故ニ  
一部ハ賛成スルモ全體ハ同意スル能ハス聊カ意見ヲ陳ス

○四十四番 大鳥圭介 本官モ現問題ノ趣意ハ賛成スルモ文字ノ布置ニハ

同意スル能ハス動議者ハ内閣委員ト意見ヲ異ニシ但書ヲ附シテ藥  
品取扱規則ト抵觸セサラシム可シト云フモ是レ甚タ重要ノ修改ニ  
シテ充分ニ調査セサレハ藥品取扱規則ヲ廢スルノ可否ヲ甄辨スル  
能ハス藥局方ノ如キハ藥學ニ通セサル本官等ハ素ヨリ之ヲ可否ス  
ルヲ得ス且布告案ノ外ナレハ姑ク之ヲ置キ此單簡ナル布告案ニ對  
シテハ充分ニ其可否ヲ議スルヲ得レハ調査委員ヲ置キテ審査スル  
ニ如カス決シテ輕易ニ但書ヲ附ス可キニ非ス且ヤ現修正文ノ撰定

セシメタルト云フ如キハ内務省ニ於テ更ニ他人ヲシテ撰定セシメ  
タルノ觀ヲ呈シ文字妥穩ナラス因テ調査委員ヲ置クコトヲ特別ニ

建議ス

○十番 大給恒 四十八番ノ發言ハ一理アルモ今遽カニ其可否ヲ斷スル

能ハサラシ然ルニ四十四番ハ調査委員ヲ置ク可キヲ建議ス是レ法  
案ヲ輕忽ニセサル所ニシテ大ヒニ本官ノ心ヲ得タリ因テ其建議ヲ  
賛成ス

○二十二番 柴原和 本官ノ四十八番ノ但書ニ同意セシハ内閣委員ノ辨

明ヲ俟テ更ニ思考スル意度ナリシモ未タ詳明ナル答辨ヲ得ス現修  
正ノ如ク單ニ一月一日ヨリ施行スト云ヘハ一般ニ關涉スルノ支障  
ヲ見ル若シ内閣委員ヨリ更ニ此點ヲ明辨セハ特ニ調査委員ヲ置ク

ヲ要セス

○外一番水野

四十八番ノ修正説ニ對シ一辨セン其施行スト爲シ認

可ノ文字ヲ刪除スルハ不可ナリ此藥局方ハ實際内務省ノ上進シ内閣ノ之ヲ認可シタルナレハ認可ノ文字ヲ除ケハ恰モ人ニシテ眼目ナキカ如シ故ニ認可ノ文字ハ本案ノ主眼ナリトス且本案ハ固ヨリ變例ニ屬スレハ從前ノ布告案ト同視セスシテ原案ノ如ク可決セシヲ望ム第一讀會ニ於テ四十八番ノ發言ハ質疑ニ非ス本員ト意見ヲ異ニスルコトヲ陳述セルノミト認メテ答辨セサリシモ是レ敢テ答辭ニ困セシニ非ス藥品取扱規則ト抵觸スル各件ハ即チ藥舖取締條例ヲ發シテ以テ之ヲ防カントス故ニ藥品取扱規則ハ必シモ廢止スルヲ須ヒサルナリ

○五十七番山口  
尙芳

四十四番ノ建議ヲ贊成ス元來藥局方ハ時時ニ變更

スル者ニシテ其議官ノ云ヘル如ク歐米各國ニ於テモ一定スル能ハス本邦ノ藥品取扱規則ト藥局方ト差異ヲ生スルヲ以テシテモ之ヲ知ル可シ故ニ藥局方ヲ編制スルハ宜ク内務省ニ委任スヘキノミ本院ニ於テ之ヲ議ス可キニ非ス歐米各國モ藥局方ハ議院ノ議決ヲ經由セシメサルナレハ今後改正スル毎ニ本院ノ議定ヲ經由スルノ煩勞ヲ省クヲ要ス故ニ調査委員ヲ置キ簡便ノ方法ヲ立テ可ナリ内閣委員ハ急施ヲ要スト云フモ二十年一月ニ發布スルナレハ調査ノ餘日ナシト謂フ可ラス建議ノ如クセンヲ望ム

○議長 四十四番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十六人

○議長 多數ナルヲ以テ調査委員ヲ置クニ決シ本席之ヲ指定シ十番  
大給 二十二番 柴原 四十四番 大鳥 四十八番 村田 七十二番 加藤 恒 和 圭介 保 弘 之 以テ  
之ニ充ツ調査委員ノ報告ヲ俟テ開會セン本日ハ散會セヨ

午前第一時五十分閉場

本案ノ會議ハ第二讀會ニ於テ調査委員ヲ置キシ後三月三日内閣  
ヨリ暫時開議ヲ中止ス可キヲ通牒セリ因テ暫ク會議ヲ中止シ更  
ニ同月二十日ヲ以テ本案ヲ返上ス可キヲ通牒セルニ因リ即日本  
案ヲ還上ス

元老院會議筆記 明治十九年三月一日

○第五百七號議案 竊種檢査規則ノ件 第一讀會

議長 東久世  
通禧

出席議員

- 一番 田中 芳男
- 三番 長松 幹
- 四番 久我 通久
- 五番 三浦 安
- 七番 黒田 清綱
- 八番 安藤 則命
- 九番 田邊 太一

十番	大給	恒
十一番	伊丹	重賢
十二番	長岡	護美
十五番	箕作	麟祥
十六番	細川潤次郎	
十八番	宮本	小一
十九番	楠本	正隆
二十番	大久保一翁	
二十一番	林	友幸
二十二番	柴原	和
二十四番	何	禮之

二十五番	榎村	正直
二十六番	鷺尾	隆聚
二十七番	福原	實
二十八番	津田	真道
二十九番	橋口	兼三
三十番	渡邊	驥
三十一番	鍋島	幹
三十二番	海江田	信義
三十三番	井田	讓
三十四番	西村	貞陽
三十五番	永山	盛輝

三十六番	西	周
三十七番	岩村	定高
三十八番	壬生	基修
三十九番	町田	久成
四十一番	渡邊	清
四十二番	楫取	素彦
四十三番	上杉	茂憲
四十四番	大鳥	圭介
四十八番	村田	保
四十九番	神山	郡廉
五十番	河田	景與

五十一番	伊集院兼寛
五十二番	野村 素介
五十三番	津田 出
五十四番	由利 公正
五十五番	中島 錫胤
五十七番	山口 尙芳
五十八番	宍戸 璣
六十番	鶴田 皓
六十五番	中村 弘毅
六十七番	原田 一道
六十九番	大迫 貞清

七十一番 伊東 祐磨

七十二番 加藤 弘之

内閣委員番外 法制局參事官 水野 遵

午前第十時十分開場

○議長 第五百七號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

蠶種黑痣病一名微粒子病 洋語「ペブリーナ」豫防ノ爲メ蠶種検査規則左ノ通制定シ

明治十九年十月一日ヨリ施行ス

奉勅

蠶種検査規則

第一條 蠶種營業者ハ此規則ニ從ヒ蠶種ノ検査ヲ受クヘシ

第二條 蠶種營業ヲ爲サントスル者ハ府知事縣令ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 府知事縣令ハ管内便宜ノ地ニ蠶種検査所ヲ設置スヘシ

第四條 蠶種検査員ハ府知事縣令之ヲ命ス

第五條 蠶種検査ノ方法ハ農商務大臣之ヲ定ム

第六條 春蠶種ノ検査ハ毎年十月一日ヨリ始ム

但夏蠶種秋蠶種ノ検査期日ハ府知事縣令之ヲ定ム

第七條 蠶種營業者ニ於テ春蠶種ハ七月十五日迄ニ夏蠶種秋蠶種

ハ其検査期日ヨリ六十日以前ニ其製造概數ヲ府知事縣令ニ届出

ヘシ

第八條 蠶種紙若クハ蠶種囊ニハ蠶種製ノ年月日及製造人ノ住所  
氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記スヘシ

第九條 蠶種ハ原種販賣用種ノ製造ニ  
用フルモノヲ云ト販賣用種トヲ區別シテ檢  
査所ニ差出スヘシ

但一蛾毎ニ區別シテ産卵セシメタルモノハ其蛾ヲ添テ差出ス  
ヘシ

第十條 検査済ノ蠶種ニハ検査所ニ於テ其蠶種紙又ハ蠶種囊ニ檢  
査済ノ證印ヲ押捺スヘシ

第十一條 検査ノ際原種ハ百分ノ五以上販賣用種ハ百分ノ十五以  
上ノ病毒ニ罹ルモノヲ發見シタルトキハ検査所ニ於テ之ヲ燒棄  
スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ豫メ其營業者ニ通知シ營業者立會ヲ請  
フトキハ之ヲ許可スヘシ

第十二條 検査ノ證アル蠶種ニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス  
検査ノ證アル原種ニアラサレハ販賣用種ヲ製造スルコトヲ得ス

第十三條 蠶種營業者ハ其業名ヲ記シタル標札ヲ戶外ニ掲出スヘ  
シ

第十四條 蠶種營業者廢業シ若クハ他ノ管轄地へ寄留又ハ轉籍セ  
ントスルトキハ其旨ヲ管轄廳へ届出ヘシ

但寄留若クハ轉籍地ニ於テ營業ヲ爲サントスルトキハ更ニ其  
管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條 蠶種検査所ニハ検査臺帳ヲ備へ營業者ノ住所氏名原種

及販賣用種ノ紙數又ハ蠶數并ニ燒棄シタル員數ヲ記入スヘシ

第十六條 府知事縣令ハ各検査所毎年検査ノ成績ヲ取調ヘ翌年二月限農商務大臣ニ報告スヘシ

第十七條 第二條第十二條ニ違ヒタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 此規則ヲ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

○番一 水野 例ニ依リ本案制定ノ理由ヲ陳述セン抑モ蠶種ハ我カ國產物ノ第一二位スル生糸ノ元種ニシテ蠶種生糸ノ豊凶ハ大ヒニ内外貿易ノ盛衰ニ關係ス故ニ其検査ハ實ニ急務ト謂フ可シ近來蠶種ニ一種ノ病毒ヲ發見セル有リ其病毒タル支那地ヨリ傳染シタル

者ニシテ其害漸ク蔓延セハ遂ニ全ク生糸ノ聲價ヲ墜スニ至ラン然リ而シテ其蔓延ヲ防クニハ頗ル煩雜ノ手數ニ涉レトモ到底法律ヲ以テ蠶種検査法ヲ施クニ如カス元來此「ペブリーナ」ナル病毒ハ人類ニ於ケル虎列拉病ト肺病トヲ併合セル如キ性質ヲ有シ輒ク傳染シ且遺傳スル者トス是レ生産上最モ懼ル可キ病毒ナレハ其大害ヲ起ササルニ及ヒテ豫メ防禦セサル可ラス本案ハ此ノ如ク明瞭ナル理由ニ成レル者ナルヲ以テ速ニ議決センコトヲ望ム若シ夫レ條項ニ涉ル疑義ニ至テハ質問ニ隨ヒ答辨セントス

○十一番 伊丹重賢 本案ノ大體ノ旨趣ハ説明ニ因テ之ヲ領セリ思フニ蠶種ニ關シテハ明治初年以來政府夙ニ其方法ヲ講シ蠶種製造規則蠶種取締規則等幾多ノ法令ヲ布キシモ爾後漸次ニ之ヲ廢シ近來ニ至



テハ蠶種ニ係ル規則ハ一モ之レ無キニ至レリ元來蠶種ハ本邦第一國産タル生糸ノ原種ナルニ果シテ内閣委員ノ説明セシ如キ懼ル可キ病毒ノ發生スル有ラハ速ニ法律ヲ制定シテ嚴ニ之カ取締ヲ爲スハ最モ必要ナリトス因テ欣ンテ之ヲ賛成ス只其大體ニ關シ質問ヲ爲サン本案ノ検査ハ專ラ黑痣病ニ施ス者ナル歟往年嘗テ蠶種ノ需要一時海外ニ盛ンナリシヤ製造者ハ眼前ノ利ニ奔リテ濫造粗製ヲ事トシ其供給ノ以テ需用ニ過キ爲メニ多數ノ蠶種紙ヲ餘マシ遂ニ之ヲ海中ニ投シ又ハ燒棄ニ付セシコト有リ此ノ如キ弊害ヲ防クハ最モ検査規則ノ効力ニ頼ル可キヲ信ス然ルニ本案ハ獨リ黑痣病ノミニ關スル如キヲ以テ検査ヲ爲スニ際シ假令ヒ偽造若クハ他ノ不良質ノ者アルヲ發見スルモ黑痣病ノ患ヒ無クンハ検査濟ノ證ヲ付

與スル耶已ニ官府ノ検査ヲ了セシ證ヲ有セハ内外共ニ信用ヲ置クヤ知ル可シ然ルニ其蠶種ニシテ偽造又ハ不良質ノ者ヲ包含セハ官府ハ如何カ之ヲ處スルヤ是レ本官ノ大ヒニ憂慮スル所ナリ又本案ハ便宜ノ地ニ検査所ヲ設置スルコトヲ規定セリ然ルニ其費用ハ府縣廳之ヲ支辨スル耶將タ地方稅ヨリ支出スル耶蓋シ多額ノ費用ヲ要ス可シト思惟スレハ併セテ説明センコトヲ請フ

○外一番水野

第一問ニ對シテハ聊カ蠶種検査法ノ大畧ヲ答陳セン

元來蠶種ニハ種種ノ病害アリテ其病名ハ幾ント擧示ニ勝ヘスト雖モ其根由スル所ハ大抵黑痣病ニ非サル莫シ其検査方法タル先ツ蠶種ヲ播研シテ此ニ清水ヲ混和シ其液一滴ヲ三百五十倍ノ顯微鏡ニ照シテ検査スルナレハ彼ノ粟粒ヲ附シタル如キ贗造品ヲ發見スル

ハ容易ナルノミ又病毒百分ノ十五以上ニ屬スル販賣用種即チ繭糸ト爲ス可キ者ノ如キハ肉眼ヲ以テスルモ蠶卵ノ位置若クハ色樣ニ因テ輒ク其眞實ヲ鑒別スルヲ得ヘシ故ニ是等ハ顯微鏡ノカヲ假ラサルモ検査ニ誤失ヲ致ス無キハ疑フ可キニ非ス第二問ノ検査所ハ主務省ノ考案ニ據レハ郡役所ノ一室ヲ以テ之ニ充テ又ハ蠶業ノ盛大ナル土地ニ於テハ寺院ヲ借リテ之ニ供シ其期節ニ吏員ヲ派シテ検査ヲ施サシムルノ計畫ナリ故ニ其費用ニ至テハ未タ精密ノ豫算ヲ立ル能ハス全國産出ノ蠶種紙ハ一年一百五十萬枚ト做シ其検査ハ原種一日十枚販賣用種一日五十枚ト定メ而シテ山梨長野ノ如キ製造最モ盛大ナル土地ニハ自ラ日數ト人員トニ多數ヲ要スルヲ以テ検査所モ隨テ數所ヲ要ス可キモ神奈川縣等ニ至テハ僅ニ一所ヲ

設ケテ足ル可シ此費用ノ概算ハ凡ソ一萬一千七百二十九圓ニシテ國庫ヨリ之ヲ支辨セントス向キニ検査ノ手数料ヲ徵收ス可シトスル議論出タリシモ此創設ノ場合ニ於テ之ヲ徵收セハ人民ノ検査規則ヲ視テ徵稅主義ニ出ル者ト誤會シ却テ或ハ困難ノ事狀ヲ惹キ起サン因テ徵稅說ハ行ハレスシテ寢メリ起立ノ次ニ一言ス本案第八條「蠶種製」ノ文字ノ下ニ造ノ字ヲ脱セリ是レ下付原案ノ誤リナラシ各位之ヲ領セヨ

○二十二番柴原和 本案ノ大體ヲ賛成ス然ルニ内閣委員ノ説明頗ル簡單ナルヲ以テ未タ各條ノ旨趣ヲ詳解スルヲ得ス因テ逐條ニ疑點ヲ質問セン是レ本案中實際ニ適施ス可ラサル事項アリト信スレハナリ本官向キニ甲斐又ハ上野ニ在職セルニ當リ稍ヤ養蠶事業ヲ見聞

セル所アリ其後千葉縣ニ轉職シテヨリ山繭検査法ヲ創メ頗ル苦心シテ之ヲ研究セリ因テ吾カ記憶スル所ヲ擧ケテ以テ質問センニ第六條ハ春蠶種ノ検査ヲ毎年十月一日ヨリ始ムルコトヲ規定ス然ルニ本官ハ十月十五日以後ニ非サレハ實行スルニ難シト信ス蓋シ諸國各地寒暖ノ差別ヲ存スルモ若シ概シテ十月一日ト爲セハ蠶卵未ダ變色ヲ呈セス故ニ其病毒ノ有無ヲ鑒別スルニ難クシテ大ヒニ支障ヲ致サン又此條ノ但書ノ秋蠶種トハ如何ナル蠶種ヲ指稱スルカ恐クハ全國內ニ秋蠶種ナル者ヲ生スル地方ナカラシニ夏蠶種スラ從來信濃地方ノ外ニハ之ヲ飼養セス近來ニ至リ少シク山梨地方ニ行ハレシノミ況ヤ秋蠶種ヲ蠶卵ノ孵生シ初眠以後四眠ヲ經過シテ成繭ニ至ル形狀ハ春蠶夏蠶一モ異ナル無シ信濃ニ於テハ從來盛

シニ夏蠶ヲ飼養スルヲ以テ夏蠶種ノ夥多ニシテ一期ニ飼養スル能ハサルトキハ其幾分ヲ取り信濃飛彈ノ國境ナル風穴ト唱フル陰地ニ蓄藏シ夏蠶ノ收穫ヲ終リ降霜ノ季節ニ先タチ之ヲ飼養ス然リ而シテ其氣候ノ春期ニ比スレハ稍ヤ温暖ノ多キヲ以テ其成熟モ亦春蠶ヨリ早ク大抵孵化ヨリ三十日ヲ經テ成繭ヲ得ルナリ是等ハ所謂ル秋蠶ナル可キモ其實ハ夏蠶ノ殘餘ニシテ眞ノ秋蠶ト謂フヲ得ス嘗テ夏蠶種ヲ日光山中ニ藏シテ秋蠶ヲ試養セシコト有リシモ此等ハ未タ以テ言フニ足ラス是ニ由テ之ヲ觀レハ秋蠶種ナル者ハ實際ニ之レ無シト信ス又第八條ノ蠶種囊ナル者ハ外國ニハ已ニ之ヲ使用スルモ本邦ニハ未タ之レ有ラス彼ノ農業ノ餘暇ニ於テ僅ニ半枚若クハ一枚ノ蠶種ヲ飼養スル者其蠶種ヲ貯藏スル爲メニ紙囊ヲ作

リテ産卵セシムル有ルヲ見レトモ未タ販賣用蠶種紙ニ之レ有ルヲ見ス然ラハ則チ本條ノ蠶種囊ハ運搬ニ便スル爲メニ用ユル者ヲ謂フ乎本官ハ蠶種囊トハ囊製ノ蠶種紙ヲ謂フ者ト解ス而シテ是レ本官ノ未タ我カ國內ニ於テ目撃セサル者ナリ又第九條ノ但書ニ一蠶毎ニ區別シテ産卵セシメタルモノハ云云ト言フモ元來原種紙ニハ一枚百羽附又ハ一枚百二十羽附ノ別チ有リ而シテ一枚百羽附ヲ以テ通例ト爲セトモ夏蠶ノ蛾ハ稍ヤ小ナレハ百二十羽附ト爲ス有リ從前八十一年第十號布告ヲ以テ廢止セシ七年第十九號布告蠶種原紙規則ニ規定スル如ク養蠶期節ニ際シテ一定ノ原用紙ヲ購ヒ此ニ産卵セシム例ヘハ蛾ヲ薄紙ニ投シテ相ヒ交接セシメ交接若シ過度ナルトキハ尿ヲ漏ラシテ汚班ヲ原用紙ニ點スルヲ以テ其度ヲ計リ

之ヲ分離シ他ノ原用紙ニ貼シテ産卵セシム然ラハ則チ到底一蛾毎ニ區別シテ産卵セシムル事實ノ存スル無シ但々時ニ養蠶家ノ試験ノ爲メニ良蛾ヲ擇ヒテ特ニ産卵セシムル有ル可キモ是レ素ト販賣用ニ供スル者ニ非ス故ニ此條ノ但書ノ事ハ實際ニ之レ無シト信ス又第十一條ノ原種ハ百分ノ五以上販賣用種ハ百分ノ十五以上トノ區別ハ何ヲ以テ標準ト爲ス耶貯藏ニ供スル卵種モ販賣ニ供スル卵種モ素ト同一ノ卵種ニシテ其卵種ノ性質ノ殊異ナルニ非ス故ニ本官其區別ノ理由ヲ詳カニスル能ハサルナリ又番外一番ハ黑痣病ハ肉眼ヲ以テ鑒別スルヲ得ル如ク説明セルモ本官ハ未タ遽カニ之ヲ信スルヲ得ス本官ノ聞ク所ニ據レハ從來蠶種ニ「シミ種」ナル者ノ在ル有リテ近來其傳染質ナルヲ發見ス然ルニ是レ顯微鏡ヲ以テセ

サレハ其病毒ヲ鑒別スル能ハスト又「シヒナ種」ナル者ノ在ル有リ  
 個ハ全ク母蛾ノ脆弱ナルニ原因スト本官未タ黑痣病ナル者ノ在ル  
 有ルヲ聞カサレトモ是レ恐クハ「シミ種」ヲ云フナラン且ヤ産卵ノ  
 病狀ハ大抵十月十五日以後ニ非サレハ明カニ識別スル能ハサルニ  
 本案ノ十月一日ヲ以テ検査ノ初日ト爲セルハ何ソヤ是レ主務省ハ  
 精ク實業家ニ諮詢シテ然カク規定セルナランモ本官ノ見聞スル所  
 異ナレハ聊カ以上ノ數點ヲ質問ス

○番一水野番

二十二番ノ質問セル各點中ニハ學問上ニ渉ル有リテ

幾ント本員ヲシテ答辨ニ苦マシム因テ主務省ノ参考書ニ記述スル  
 所ニ據リテ聊カ陳辨セン第六條ノ検査ノ初日ヲ十月一日ト爲セシ  
 ハ大ヒニ主務省ノ研究セシ所ニシテ土地ノ南北ニ因テ其氣候ニ寒

暖ノ差異アレトモ若シ之ヲ緩フセハ賣買上ニ種種ノ支障ヲ生スル  
 ヲ以テ多年ノ經驗ニ徴シ本條ノ如ク規定スルナリト云フ但タ其詳  
 細ノ理由ハ本員之ヲ辨明スル能ハス秋蠶種ハ全國實ニ稀ニ見ル所  
 ナレトモ若シ僅少ナリトシテ之ヲ法條ニ掲ケスンハ所謂ル千丈ノ  
 堤塘モ蟻穴ヨリ崩潰ストノ諺語ノ如ク恐クハ法律ノ缺點ヲ致サン  
 夏蠶ヲ陰冷ノ場處ニ蓄藏シテ秋蠶ヲ飼養スルコトハ本員明カニ答  
 辨スル能ハサレトモ主務省ノ務メテ概括ヲ欲スル趣意ヲ採リテ本  
 條ニ之ヲ掲記セシナリ又彼ノ肉眼ヲ以テ鑒別スルヲ得ヘキ「シミ種」  
 ノ如キハ検査ノ際ニ之ヲ採用セサルハ論ヲ俟タス元來黑痣病ハ已  
 ニ説明セシ如ク肺病ト虎列拉病トヲ包併セル如キ病質ニシテ敢テ  
 蠶卵ニ黑點ヲ存スル者ニ非ス然レトモ其検査ハ主務省ノ説明書ニ

記述スル如ク病蠶ノ筵席ヲ洗滌シタル汚水若クハ倒卵ヲ播研シ其津液ヲ検査セハ容易ニ病毒ヲ發見スルヲ得ヘシ畢竟黑痣病ナル文字ハ獨乙語「ペプリーナ」ノ直譯ニシテ原語ハ黑キ痣ナル義ヲ有ス獨乙ニ於テハ蠶卵ニ黑點ヲ生スルヲ以テ此名ヲ付スルモ本邦ノ蠶卵ニハ未タ外部ニ此ノ如キ形象ヲ現スル有ラスト雖モ其病根ハ彼此同一ナリトス第八條ノ蠶種囊ハ二十二番ノ說ク如ク實ニ本邦ニハ此物無シ是レ佛蘭西人「パスチュール」氏ノ發明ニ係リ即チ布囊中ニ於テ産卵セシムルナリ是レ實ニ改良ノ方法ニシテ早晚他邦ニ傳播シ我國モ亦之ヲ採用スルニ至ルヤ明白ナリ因テ豫シメ此ニ掲出セルナリ第九條但書ノ質疑ハ當然ナレトモ元來原種ヲ製造スルニ先ツ原種紙ノ上面ニ鍍葉製ノ方匣ヲ覆ヒ其裡内ニ母蛾ヲ放チテ

産卵セシメ各自ニ番號ヲ付シテ區別スルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ其産卵ト母蛾トヲ検査セサル可ラス即チ死蛾ニ水ヲ注キテ病毒ヲ検査ス是レ但書ノ要用ナル所以トス但タ原種ノ製造ニ限り販賣用種ノ製造ニハ此ノ如キ方法ヲ施ス無キナリ第十一條ノ原種ト販賣用種トヲ區別スル理由ハ凡ソ蠶卵中ニハ幾分カ病毒ヲ含有セサル莫シ原種ハ販賣用種ヲ製出スル根元ニシテ最モ精良ヲ貴ムニ因リ病毒百分ノ五以上ヲ制限ト爲スモ販賣用種ニ至テハ其需用廣大ナルヲ以テ病毒百分ノ十五以上ヲ制限ト爲シ原種ニ比シテ稍ヤ制限ヲ緩ウセスシハ爲メニ養蠶事業ニ大障礙ヲ與ヘントス然ルモ若シ實際ニ於テ兩者ヲ別タス百分ノ五以上若クハ百分ノ一以上ニ制限スルヲ得ハ實ニ至幸ト謂フ可キノミ

○四十八番保村田 本案ニ關シテハ本官モ主務官ニ就キテ其要用ヲ聞  
 キ養蠶家ニ扣キテ其現況ヲ質シ更ニ歐洲諸國ノ事情ヲモ粗ホ探究  
 スルヲ得テ始メテ本案制定ノ緊要ナルヲ覺知セリ内閣委員ノ粗ホ  
 説明セル如ク黑痣病ハ初メ盛シニ歐洲及ヒ支那ニ害毒ヲ流セル者  
 ニシテ諸種ノ蠶病中其害毒ノ猛烈ニシテ最モ恐ル可キ復タ此ニ過  
 クル莫シ何トナレハ啻ニ蠶蟲ノ子孫ニ病毒ヲ遺傳スルノミナラス  
 其病毒ノ空氣中ニ飛散シ外物ニ附着シテ他ノ蠶蟲ニ傳染頗ル迅速  
 ナレハナリ故ニ寧ロ此病ヲ呼ンテ蠶種虎列拉ト爲スモ可ナリ黑痣  
 病ナル文字ハ原語「ペブリーナ」ノ譯語ニシテ素ヨリ近時ノ新文字ナ  
 ルモ其病毒ヤ我邦ニ存スル已ニ舊シ然レトモ古來養蠶家中一モ此  
 病源ヲ研究セル有ラス其病毒ノ發生スルヤ之ヲ氣候ノ變動等ニ委

シテ酒類ヲ散布シ或ハ蕃椒水ニ浸シ又ハ高價ヲ以テ無効ノ藥劑ヲ  
 購用シ以テ之レカ驅除ヲ謀レリ其効驗ヲ見サルモ蓋シ宜ヘナリ歐  
 洲ニ於テハ千五百年代佛朗西伊太利ノ間ニ此病毒ヲ發生シ千六百  
 八十年ヨリ千七百十年ニ至ルマテ大ヒニ同國地ニ流行セリ是レ我  
 カ元祿元年ヨリ寶曆元年マテニ當リ今ヲ距ル凡ソ二百年ナリ其後  
 千八百四十九年即チ我カ嘉永二年今ヲ距ル三十七年前歐洲ニ於テ  
 再ヒ激烈ナル黑痣病ヲ發生シ其病毒ハ蔓延シテ連年ニ及ヒ養蠶家  
 ハ非常ノ損失ヲ被フリ桑ヲ伐リテ他樹ヲ植ヘ蠶業ヲ廢シテ饑餓ニ  
 泣ク者陸續相踵キ當時獨乙ノ養蠶事業ノ如キ全ク其跡ヲ絶ツニ至  
 レリ千八百六十年即チ我カ安政五年ノ頃ニ迄ヒテハ其害毒益ス甚  
 シク歐洲各國ノ養蠶事業ハ全ク地ニ墜チ復タ挽回ス可ラサル否運

ニ達シ佛國農務卿ハ深ク之ヲ憂ヒ大博士「パスチユール」氏ヲ舉ケテ  
 蠶疫撲滅ノ處置ヲ委子又佛國皇后ハ氏ヲ宮中ニ召シテ親シク此事  
 ヲ勅命セリ此ニ於テ氏ハ五年ヲ期シ全ク奏功ス可キヲ誓約シテ退  
 キ以後專ラ病毒ヲ撲滅シ蠶種ヲ改良スルコトニ從事ス此際適マ佛  
 國「ドローム」ノ養蠶家某我カ日本ノ蠶種紙三枚ヲ本國ニ輸シ之ヲ飼  
 養シテ良結果ヲ收メ千八百六十五年即チ我カ慶應元年徳川氏蠶種  
 紙一萬五千枚ヲ佛國ニ寄贈セルヨリ我カ蠶卵紙ノ聲價ハ歐洲ニ揚  
 リ遂ニ盛ンニ輸出ヲ始メ「パスチユール」氏ハ我邦ノ蠶ヲ取テ自國ノ  
 蠶ニ接シ一種良好ノ蠶種ヲ得テ益ス養蠶事業ヲ改良シ遂ニ養蠶病  
 理書ヲ著述シ續イテ布囊産卵法即チ蠶種囊製造法及ヒ病毒發見顯  
 微鏡使用法ヲ發明セリ此等ノ發明ヨリシテ歐洲各國頓ニ病毒ヲ減少

シ方今殆ント其病根ヲ絶ツニ至ル因テ千八百八十四年佛國大統領  
 ハ上下議院ノ決議ヲ經テ「パスチユール」氏ニ二千五百法ノ年金ヲ  
 賞與セリ是レ「パスチユール」氏ノ誓約ヲ履ミテ蠶種改良ノ偉功ヲ  
 奏シタルカ故ナリ然ルニ一步ヲ轉シテ本邦蠶種輸出ノ景況ヲ觀察  
 スルニ十年以前ニハ蠶種紙ノ輸出毎年一百三十拾萬枚ニ下ラス人民  
 ハ爲メニ巨利ヲ博セシモ十五年ニハ其數十七萬枚ニ減シ十六年ニ  
 ハ頓ニ退縮シテ僅ニ七萬枚ノ少數ニ降レリ畢竟是レ我カ蠶種ニ黑  
 痣病ヲ含ミ需要者ノ改良ノ目的ヲ達スル能ハサルニ因由ス「パスチ  
 ュール」氏曾テ人ニ語リテ曰ク日本ハ惡質ノ蠶種ヲ歐洲ニ輸出スル  
 トキハ却テ自國ノ不幸ヲ見ント又三年前伊國某新聞紙ニ記シテ  
 曰ク歐洲人ハ夙ク黑痣病ノ害毒ヲ發見シテ之レカ改良ヲ爲セトモ



日本人ハ未タ此毒害ヲ發見セス若シ荏苒トシテ改良ヲ加ヘスンハ遂ニ蠶種ヲ我カ伊國ニ需求スルニ至ルヤ必セリト今ヤ吾邦ノ現況ハ將サニ此豫言ノ情況ニ陥ラントスル者ノ如シ豈深ク戒心セサルヲ得ンヤ故大久保内務卿ハ明治八九年ノ交ニ在テ既ニ蠶病ノ害毒ヲ憂ヒ草案ヲ作りテ其驅除改良ニ心ヲ盡セリト聞ク現時主務官ハ頻リニ其改良ニ熱心シ地方人民モ陸續來リテ傳習ヲ受ケ大藏大臣モ顯微鏡ヲ各地方官ニ下付スルコトヲ述ヘリト聞ク試ミニ主務官衙ノ調査ニ係ル蠶種病毒試驗表ヲ觀ルニ福島縣内ノ一部分ヲ除クノ外ハ全國ノ蠶種大抵多少黑痣病毒ヲ含マサル無シ今試ミニ卵種ヲ最上等中等下等ノ四級ニ區分シ全ク病毒ヲ含ム無キヲ最上等ト無シ百分ノ五分以下ヲ上等ト爲シ十分以下ヲ中等ト爲シ十一

分以上ヲ下等ト爲シ全國產出ノ蠶卵紙ヲ一百五十萬枚ト假定シテ其全收入額ヲ算スレハ三千四百四拾一萬八千六百圓ナリ然ルヲ若シ之ヲ改良シテ上等種ノミトシテ算スレハ五千七百七拾九萬四千五百圓ナレハ此差額二千三百三拾七萬五千九百圓ニシテ其改良ノ以テ一國ノ損益ニ關係スル此ノ如ク大ナリ是レ以テ蠶種改良事業ノ忽諸ス可ラサル昭昭ニシテ日本帝國ノ貧富ハ一ニ養蠶事業ノ盛衰如何ニ繫リ養蠶事業盛大ナレハ一國殷富ニ養蠶事業衰退セハ一國貧困セン故ニ客歲大藏大臣ノ本院ニ來リテ演告セル所ニ據ルモ天皇陛下ハ親シク大藏大臣ニ軍艦製造ノ方法ヲ垂問シタマヒ大藏大臣ハ日本ノ軍艦ハ生糸ヲ以テ製造ス可シト對奏セリ此ノ如キ至重ノ國產物ヲ殘害スル病毒ハカメテ今日ニ豫防セサル可ラス是レ

検査規則ノ緊要ナル所以ナリ聞ク我カ比鄰ナル支那ニ於テモ江蘇  
 浙江ノ地方ハ往年大ヒニ此病毒ヲ發生シ毎年輸出セル八萬俵ノ生  
 糸ハ近來減シテ其半額ニ上ラス支那政府ハ現時專ラ撲滅改良ニ從  
 事スト幸ニモ本邦ハ未タ歐洲及ヒ支那ノ如キ大害ヲ被フヲサルニ  
 因リ若シ之ヲ今日ニ豫防シ以テ蠶種ニ一層ノ改良ヲ加ヘハ庶幾ク  
 ハ此禍患ヲ免ルヲ得ン本案ハ實ニ近來多ク見サル良案ナルヲ以テ  
 欣ンテ賛成ヲ表ス起立ノ次ニ内閣委員ニ質問セン第二條ニ「蠶種營  
 業ヲ爲サントスル者ハ府知事縣令ノ認可ヲ受クヘシ」ト言フ此認可  
 ナル文字タル許可ナル文字ニ比スレハ意義稍ヤ輕クシテ只官府之  
 ヲ認ムト云フニ過キス許可ナル文字ニ至テハ或ハ許可ノ證ヲ與ヘ  
 又ハ許可料ヲ納ムル等ヲ包含シ其意義稍ヤ重シトス蓋シ本條ノ認

可ハ許可ノ誤寫ニ非サルカ第十四條ノ但書ニハ許可ナル文字ヲ掲  
 ケリ是レ本籍ノ土地ニ於テ營業スル者ハ認可ニ止メ寄留若クハ轉  
 籍ノ土地ニ於テ營業スル者ハ許可ヲ受ケシムルカ彼此事實ニ異同  
 ナクシテ文字ニ異同アルハ本官ノ解セサル所ナリ又第十四條ニ於  
 テ營業者ノ廢業寄留換若クハ轉籍ヲ爲セル場合ノ届出ヲ示セリ營  
 業者ノ實際ヲ觀ルニ第八條ニモ掲記スル如ク會社組合等ヲ以テ營  
 業スル有リ本官ノ九州地方ヲ巡回シタルヤ現ニ多ク蠶種營業ノ會  
 社組合ヲ見タリ然リ而シテ此等ノ支店ヲ某地ニ開クニ當テハ敢テ  
 届出ヲ要セサルカ將タ本條ノ轉籍寄留換云々ノ中ニ包含セシムル  
 ヤ又第十五條ノ住所名氏云々ハ會社組合等ノ場合ニ於テハ一一ニ  
 其會社員若クハ組合員ノ住所氏名ヲ列記セシムルヤ又第十七條ノ

罰則中ニハ何ヲ以テ第十四條ノ違反者ヲ加ヘサルヤ其許可ヲ受ケサルハ第二條ト何ソ擇ハン願クハ此各點ノ理由ヲ聽ン

退席

三十二番 海江田信義

○外一番 水野 認可「ト」許可「ト」ノ疑問ハ甚タ理アリ本員ノ帶持スル

原案ハ第二條第十四條共ニ「認可」ト爲セリ然ルニ下付議案ニ第十四條ニ許可ノ文字ヲ填セシハ偶然ノ誤寫ナラン因テ改メテ正誤ヲ乞フ許可ナル文字ハ其意義稍ヤ重ク隨テ手數ニ煩雜ヲ加フルヲ以テ避ケテ認許ト爲セシナリ世間蠶種紙製造ヲ專業ト爲ス者甚タ稀ニシテ概子農家ノ餘業ニ之ヲ營ミ且之レ四季繼續スル營業ニ非サルヲ以テ其官府ニ對スル手續ノ如キハ務メテ簡易ナラシムルヲ要ス第十四條ニハ會社組合ヲモ包含ス是レ第一條ノ蠶種營業者ノ文

字中ニ會社組合ヲモ包括セシムル精神ヲ推スモ分明ナリ第十五條ノ往所氏名ハ第十四條ノ精神ト同ク例ヘハ百人ノ會社若クハ組合ナレハ其會社ノ頭取人支配人若クハ其組合總代人ヲシテ記名セシムルノミ是レ會社ノ如キハ法律上ニ於テ一個人ト看做セハナリ又第十四條ノ違反ヲ罰例中ニ數ヘサルハ本案ノ務メテ責罰ヲ輕クスル精神ニ出ツ元來本案ノ違反ハ違警罪ヲ以テ處罰セント欲セシモ少シク妥當ナラサルヲ以テ總テ輕罪中ノ最輕點ニ置ケリ因テ此制裁ハ第二條ニ讓リテ足レルコトヲ信ス

○三十一番 鍋島 本官モ本案ヲ賛成スレトモ聊カ疑點ヲ質サン布告

文ヲ觀ルニ十九年十月一日ヨリ施行スト言フ然ラハ則チ第六條ノ檢査ハ明年ヨリ之ヲ施行スル耶營業者ハ檢査期日ノ以前ニ豫メ准

備ヲ爲スヲ要ス即チ第七條ニ定ムル如ク七月十五日マテニ其製造概數ノ届出ヲ爲ス可キ者トス是ニ由テ之ヲ考レハ検査ハ明年ヨリ施行スト思惟ス如何ン

○番一番 水野

説ノ如ク施行期限ニ至リ直チニ検査ヲ始ムルハ甚タ

宜キヲ得サル如クナレトモ只是レ官府ト人民トノ準備ヲ爲ス如何ニ在ルノミ因テ内閣ハ實際ニ於テハ地方官及ヒ營業者ヲシテ豫メ準備ヲ爲サシムルノ經畫ナリ若シ即日ニ施行スルトセハ其明日ヨリ検査ヲ經スンハ蠶種紙ヲ賣ル能ハサル不便ヲ生セン故ニ已ムヲ得スシテ本案ノ如ク規定シタルナリ

○二十二番 柴原和

前キニ番外ノ答辨ヲ得テ疑團稍ヤ氷解セルモ茲ニ再ヒ疑點ヲ生セル有リ第六條ノ検査施行期限ヲ十月一日ト爲セシ

理由ハ之ヲ領スルモ實際ニ在テハ信州ノ如キ寒地スラ十月十五日以後ニ非サレハ病毒ヲ發見スル能ハス況ヤ上州甲州ヲヤ故ニ本官ハ初メ第六條ハ養蠶家ノ嘲笑ヲ受ケンヲ恐レタレトモ蠶種賣買ノ便宜ヨリシテ本案ノ如ク規定スルハ已ムヲ得サルナリ彼ノ秋蠶ナル者ハ元來本邦ニ之レ無シ只是レ夏蠶ノ變シテ秋蠶ト爲レル者ニシテ即チ夏蠶種ヲ冷處ニ陰藏シテ其發生ヲ遲緩ナラシムルノミ若シ其發生後遽カニ霜ヲ降シ桑葉ヲ枯ス有レハ空ク蠶蟲ヲ投棄スルト有リ此ノ如ク實際ニ存セサル秋蠶種ヲ法律ニ掲クルハ甚タ穩當ナラス然ルニ此事ニ關シテハ内閣委員ハ明答スル能ハス主務官ニ諮問セントスト陳述セルヲ以テ第二讀會ハ定規ノ日數ヲ隔テ開會センヲ請フ但タ若シ明答ヲ得ハ直ニ開會スルモ可ナリ

又彼ノ蠶種囊ハ本邦ニ之レ無シ然レトモ後日之ヲ發明使用スル時ニ備フル爲メニ此明文ヲ掲ケリト云フモ前陳ノ如ク元來本邦ニハ一種ノ蠶種囊ニ類スル物アリ此等ハ素ト自用物ニシテ廣ク賣買スル者ニ非ス故ニ本案ノ蠶種囊ト混淆センコトヲ恐ル況ヤ十數年以後ニ係ル事項ヲ豫メ法文ニ規定スルノ要用ヲ見サルヲヤ又第九條ノ蛾ノ區別ハ法律上ニハ無用ナリ何ノ故ニ賣買セサル蛾ヲ分明ニ區別シテ檢査ヲ施スヲ要セン然ルモ若シ實驗上ニ於テ但書ノ事跡ノ存スルナラハ其説明ヲ乞フ第十一條ノ百分ノ五以上ト百分ノ十五以上トノ區別ハ姑ク置キ明治七年ニ蠶種原紙賣捌規則ヲ改正シテ全國内三地方ニ原紙賣捌所ヲ置ケリ此規則ニハ春蠶種ニ厚紙ヲ用ヒ夏蠶種ニ薄紙ヲ用ヒシメタリシモ未タ秋蠶ニ關シテ規定セル

所ヲ見ス且其以後ト雖モ蠶種ニ關スル法律規則中ニ秋蠶ノ一物ヲ明示セサルニ本案ニ於テ始メテ之ヲ加ヘタルハ何ノ故ソ上州地方ニ於テ「カナス」ト稱スル一種ノ蠶蟲ハ八十八夜以前ニ發生スル者ニシテ春蠶ニ異ナリ此卵種ヨリ製取スル生糸ノ最モ早ク横濱市場ニ出ルヲ見タリ此「カナス」ハ本案ノ範圍中ニ入ルヤ又黑痣病ハ傳染病ナレトモ從來ノ「シミ種」等ノ如キ蠶病ハ傳染セサルト聞キシニ黑痣病ハ其害毒激烈ニシテ最モ恐ル可ク此ノ如キ病毒ハ假令ヒ百分ノ一ヲ含ムモ亦宜ク之ヲ燒棄スヘキニ原種ヲ百分ノ五以上ト爲シ販賣用種ヲ百分ノ十五以上ト爲スハ其病毒ノ微弱ニシテ傳染ノ患ヒ無キニ由ルカ請フ以上ノ數點ヲ辨明セヨ

○番一 番水野

秋蠶ハ間マ之レ有ルヲ主務官ニ聞ケルモ未タ其詳細

ヲ得サレハ尙ホ調査ヲ經テ第二讀會ニ答辨セン又春蠶ニ先タチ發生スル者ハ春蠶種ニ入レ掛合種ハ夏蠶種ニ入ル又或ハ地方官ヲシテ便宜ニ應シ別ニ検査期日ヲ定メシムル有ル可シ是等ハ法律上ニ於テ仔細ニ分析セサルモ可ナリト信ス第十一條ノ検査法ハ學術上ニ涉リ最モ精密ノ手續ヲ要ス是レ別ニ検査法ヲ施行スル經畫ナリ今試ミニ主務省ノ検査法案ヲ朗讀セン其第二項ニ曰ク「原種ヲ分テ二類トス其第一類ハ本邦從來ノ製造法ニ由リ一紙ニ數蛾ヲ放テ産卵セシメタルモノ其第二類ハ紙面ニ木筐ヲ置キ每區一蛾ヲ容レテ産卵セシムルカ又ハ一紙片ニ一蛾ヲ放チ或ハ一布囊ニ一蛾ヲ容レテ産卵セシメタルモノトス」ト是レ即チ卵ト蛾トヲ播碎シテ水ニ和シ以テ病毒ノ有無ヲ検査スルナリ從來我國ノ養蠶者ハ多クハ無

智ノ農民ニシテ其豊凶ヲ神爲ニ委シ病名ノ如キモ「チヂミツコ」「小砂利」「頭透」等單ニ外形ニ就キ其名ヲ指スノミ然レトモ學術上ノ検査ヲ施シ精シク其原因ヲ探究スレハ是皆黑痣病ナリ此病毒タル傳染ノ性質ヲ有スルモ彼ノ虎列拉病ノ爲メニ人種ノ死亡シ盡セル無キ如ク古來未タ嘗テ蠶病ノ爲メニ蠶種ノ滅絶セルヲ聞カス何様ノ精密ナル検査ヲ施スモ蠶病ハ到底之ヲ今日ニ掃絶スル能ハス然ルヲ若シ一粒ノ病蠶種ヲ混スルモ全紙ヲ舉テ燒棄ス可シトセハ是レ我邦ニ蠶種ノ製造ヲ廢絶セシメント論スルト一般ナルノミ亦過甚ナラスヤ

○一番田中芳男 本官モ大ヒニ本案ヲ賛成ス本案ハ素ト新創ノ法案ナルヲ以テ其體裁未タ充分ナラサルニ似タレトモ個ハ第二讀會ノ討議

ニ讓リ今只各官ノ未タ質問セサル一疑點ヲ質サン第十三條ノ標  
札トハ木標タリ紙標タル一ニ營業者ノ擇フニ委スカ其制裁ハ如何  
ン是レ第二條ニ牽連スルヲ以テ豫メ之ヲ知悉スルヲ要ス

○番一 水野 外 遵

政府ヨリ一定ノ標札ヲ下付スルニ非ス蠶種營業者ヲ  
シテ各自ニ戶外ニ貼掲セシムルノミ又其密賣犯ノ場合ニ於テハ府  
縣官ヲシテ適宜ニ制裁ヲ定メシム是レ此ニ明示セサル所以ナリ

○四十四番 大鳥 圭介

本案ノ各條ハ頗ル明白ナルモ本官ハ只違犯者ノ刑  
罰ノ稍ヤ輕キニ失スルヤノ感想ヲ有ス蓋シ新創ノ法案ニシテ他ニ  
比準ヲ取ル可キ無カラシモ其事業ノ重要ナルヲ以テ少シク刑罰ヲ  
重クシ以テ豫メ違犯者ヲ警誡セサル可ラス刑法ニ於テ農業ヲ妨害  
スル罪犯ニハ禁錮罰金ヲ併科ス然ルニ本案ノ罪犯ハ二圓以上拾圓

以下ノ罰金ヲ單科スルニ止ムルハ甚タ輕キニ過クルカ如シ元來蠶  
種ハ少量ニシテ高價ヲ保チ其相場ノ騰昂セル時ニ在テハ一枚ニ五  
圓乃至十圓ノ高價ニ達ス故ニ若シ五枚乃至十枚ヲ贗造密賣セハ少  
許ノ罰金ハ敢テ恐ルルニ足ラス知ラス第十七條ノ罰金ノ比例ハ何  
レニ取レルヤ願クハ其説明ヲ聞カン

○番一 水野 外 遵

第十七條ハ內閣ニ於テモ深ク討究セシ所ニシテ本案  
ノ違犯者ヲ刑法ノ商業及ヒ農工業ヲ妨害スル罪犯ノ中ニ置ント論  
スル有リシモ近來ノ罰例ハ恐ク鬼面ヲ被リテ人ヲ嚇スル看ヲ爲シ  
實際ニ適合セサル者間マ多シ船舶検査規則ノ罰例ノ如キ罰金ノ最  
多限三百圓ニ上ルモ彼レハ海上ノ危難ノ甚タ虞慮ス可キ有ルヲ以  
テスルノミ本案ハ物品ヲ改良スル旨趣ニ出ル新創ノ規則ニ係リ農

夫野民ノ最小ナル事業ニマテ其保護ヲ及ホスヨリシテ頗ル複雑ノ  
手續ヲ要ス故ヲ以テ初メ主務省ハ本案ノ違犯者ヲ違警罪ニ問ハン  
トセシモ内閣ハ其輕キニ過クルヲ恐レ遂ニ輕罪ノ罰金ニ上セリ質  
疑者幸ニ之ヲ領セヨ

○二十五番<sup>旗村</sup>正直 布告文ニ關シ内閣委員ニ一問ス本案下付後即チ二  
月二十六日勅令第一號ヲ以テ公文式ヲ制定セラレタリ因テ考フル  
ニ本案ヲ議定上奏セハ必ス勅令ト爲シテ發布セラレン然ラハ則チ  
本案モ新定ノ公文式ニ依リテ其體裁ヲ改メサル可ラス此事タル業  
已ニ内閣ノ牒告セルヤヲ知ラサレトモ若シ然ラサレハ「布告案」ノ  
文字ハ「勅令案」ト修改スルヲ要スルカ如シ公文式第一條ニ曰ク「法  
律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス」ト是レ或ハ法律ト勅令トヲ二様

ニ分チテ解釋スル者アラン又其但書ニ曰ク「法律ノ元老院ノ議ヲ經  
ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル」ト此明文ヲ以テセハ本案ノ如キハ閣  
令ト爲ル可キニ似タリ閣令ハ前時ノ太政官達ニシテ是レ元老院ノ  
議ヲ經ヘキニ非ス本案ハ果シテ上諭ヲ以テ布告ス可キ部分ニ屬ス  
ル乎如何ン

○<sup>水野</sup>外一番 二十五番ノ疑議ハ甚タ當然ナリト信ス本員モ未タ之  
ヲ審カニセス故ニ即答ヲ爲スニ苦ム本案ヲ本院ニ下付セルハ公文  
式ノ發布前ニ在レトモ本員ノ私見ヲ以テスレハ本案ヲ發布スルニ  
當テハ必ス御名御璽ノ式ヲ用ユルヤ必セリ因テ此事ヲ内閣ニ復命  
シ第二讀會以前ニ其詳細ヲ本院ニ牒告セン蓋シ本案ノ御名御璽ノ  
式ニ依ル可キハ勅令第一號第一條ノ明文ニ據リテ之ヲ知ルナリ



○五番<sup>三浦安</sup> 本案ノ制定ハ本官ノ尤モ賛成スル所トス但タ今者内閣ハ政務ノ改革ト共ニ布告式ヲ一變シテ頗ル明通ヲ主トシ從來地方官ノ法律ノ解釋ニ關シテ一一ニ文書ノ往復ヲ爲シタルモ今後此煩勞ヲ省キ一ニ文字ノ精神ニ依リテ解釋セシムルト爲セリ思フニ今日以前ノ法律ハ其文字頗ル修飾ニ過キ爲メニ却テ誤解ヲ來セシモ將來此弊ヲ一洗シ人民ヲシテ容易ニ法律ヲ會得セシムルハ最モ喜フ所ナリ四十八番ノ質問セル所ハ頗ル緊要ニ屬スルヲ以テ宜ク第二讀會ヲ待チテ修改ヲ加フヘク且本官モ布告案ニハ大ヒニ疑問ヲ懷キ今幸ニ二十五番ノ質疑セル有レトモ番外モ即答スル能ハスト云フ然ルニ若シ之ヲ究明セサレハ元老院ノ議定ニ反スル法律ノ發布ヲ見ントス日本藥局方ノ布告案ニ關シテモ已ニ種種ノ議論

ヲ生シ遂ニ調査委員ニ付託セリ本案ハ一層ニ重大ナル議案タルヲ以テ若シ内閣ノ文式ヲ改メスンハ本院ニ於テ須ク修改ヲ加フヘキナリ因テ本案モ調査委員ニ付託シ以テ内閣ノ牒告ヲ待チ十分ニ修改ヲ加ヘント欲ス乃チ此事ヲ建議ス

○議長 五番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ五番ノ建議ハ消滅ス

○議長 發議盡キタルヲ以テ第一讀會ヲ畢リ來ル五日例刻ヨリ第二讀會ヲ開カン本日ハ散會セヨ

午後零時二十分閉場

三月四日内閣ノ牒告ニ因リ本案ノ會議ヲ中止シ更ニ同月十九日ヲ以テ本案ヲ返上ス可キヲ牒告セリ因テ翌二十日本案ヲ還上ス

元老院會議筆記 明治十九年四月五日

禁傍聽

○第五百八號議案 華族世襲 第一讀會

議長 大木 喬任

出席議員

- 一番 田中 芳男
- 二番 小畑 美稻
- 三番 長松 小幹
- 四番 久我 通久
- 五番 三浦 安
- 六番 稅所 篤
- 七番 黑田 清綱

九番	田邊 太一
十一番	伊丹 重賢
十四番	岩下 方平
十七番	東久世通禧
十八番	宮本 小一
二十番	大久保一翁
二十一番	林 友幸
二十二番	柴原 和
二十三番	神田 孝平
二十四番	何 禮之
二十五番	榎村 正直

二十七番	福原 實
二十八番	津田 眞道
二十九番	橋口 兼三
三十一番	鍋島 幹
三十四番	西村 貞陽
三十五番	永山 盛輝
三十六番	西 周
三十七番	岩村 定高
三十八番	壬生 基修
三十九番	町田 久成
四十番	中村 正直

四十一番	渡邊	清
四十二番	楫取	素彦
四十三番	上杉	茂憲
四十四番	大鳥	圭介
四十六番	本田	親雄
四十八番	村田	保
四十九番	神山	郡廉
五十番	河田	景與
五十二番	野村	素介
五十三番	津田	出
五十五番	中島	錫胤

五十七番	山口	尙芳
五十八番	穴戶	璣
六十二番	清岡	公張
六十五番	中村	弘毅
六十七番	原田	一道
六十八番	渡	正元
六十九番	大迫	貞清
七十一番	伊東	祐賢
七十四番	調所	廣丈
七十五番	長谷部	辰連

内閣委員  
一番外 法制局參事官岩崎小二郎

午前第十時十三分開場

○議長 第五百八號議案ノ第一讀會ヲ開ク本案ハ條數頗ル多キヲ以テ朗讀ヲ省ク

布告案

### 華族世襲財産法

第一條 華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルトキハ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得

第二條 世襲財産ハ總テ家督相續者ヲシテ之ヲ相續セシムルモノトス

第三條 世襲財産ハ左ニ掲クル所ノ二類ニ限ル但第十五國立銀行

株券ハ第二類ニ準シ世襲財産ト爲スコトヲ得

第一類 田畑山林宅地鹽田牧場池沼等

第二類 政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券

第四條 世襲財産ハ前條二類中ノ一種又ハ數種ニシテ其總額毎年金五百圓ニ下ラサル純収益ヲ生スル財産タルヘシ但其財産中收益ナキ地所ヲ加フルモ妨ケナシ

第五條 世襲財産ノ所有者ハ特ニ世襲スヘキ家屋庭園圖書寶器等ヲ以テ世襲財産附屬物ト爲スコトヲ得但其收益ヲ以テ第四條ノ制限額ニ算入スルコトヲ許サス

第六條 負債義務ノ關係アル財産ハ世襲財産及ヒ附屬物ト爲スコ

トヲ得ス

第七條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ其財産ヲ増殖スルコトヲ得

第八條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ第二類ノ財産ヲ更換シテ第一類ノ財産ト爲スコトヲ得ト雖モ第一類ヲ第二類ト爲スコトヲ得ス

第九條 第一類ノ財産若シ災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減シタルトキハ五箇年以内ニ其缺額ヲ補充スヘシ

第十條 第二類ノ財産其元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ一箇年以内ニ更ニ他ノ財産ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ

第十一條 世襲財産ノ所有者ハ其財産ノ純収益ヲ抵當トシテ負債

ヲ爲スコトヲ得ト雖モ毎年其純収益ノ三分之一以上ノ償却ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第十二條 世襲財産ノ純収益ハ如何ナル場合ト雖モ債主ヨリ毎年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス

第十三條 世襲財産及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入ト爲スコトヲ得ス

第十四條 世襲財産及ヒ附屬物ハ公賣處分ヲ受ケサルモノトス但國稅地方稅區町村費ヲ不納シタルトキハ此限ニアラス

第十五條 世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フモノトス  
一家督相續スヘキ男子ナク又ハ爵ヲ奪ハレ又ハ族ヲ除カレ家督相續者ナキトキ

一第九條第十條ニ掲ケタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ

第十六條 世襲財産ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十七條 世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ華族局ヲシテ其事務ヲ

取扱ハシム

第十八條 華族局ハ世襲財産臺帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ニ關

スル事項ヲ記入スヘシ

第十九條 世襲財産ヲ創設増殖更換又ハ補充セントスル者ハ其願

書ニ財産目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財

産附屬物ヲ設ケントスル者亦同シ

第二十條 宮内大臣ハ前條ノ願書目錄ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ

第二類ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳ニ命シ株券ハ銀行若クハ會社

ニ命シ世襲財産ト爲スヘキ旨ヲ官報及ヒ其地方一定ノ新聞紙ニ  
掲ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ但世襲財産附屬物ハ華族局ニ  
於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條 前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財産ニ關シ故

障ヲ申出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財産臺帳ニ記入セシメ

認可證ヲ下付シ第一類ノ財産ハ所轄ノ府縣廳ニ命シ地券臺帳ニ

記入セシメ府縣廳ハ戸長ニ命シ公證簿ニ記入セシムヘシ第二類

ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳ニ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ根帳

ニ記入セシムヘシ

華族局ニ於テハ該地券又ハ公債證書若クハ株券ノ券面ニ世襲財

産ト爲リタル旨ヲ記入スヘシ

第二十二條 世襲財産其効力ヲ失ヒタルトキハ宮内大臣ヨリ府縣

廳又ハ銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ

第二十三條 世襲財産創設者及ヒ所有者ハ第二十條及ヒ第二十二

條ニ關スル公告費用ヲ華族局ニ納ムヘシ

第二十四條 世襲財産ニ關スル事件ヲ協議スルカ爲メ戸主及ヒ滿

二十年以上ノ相續者若クハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬

會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大

臣ノ許可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ以テ親屬會議員ニ充ルコト

ヲ得

第二十五條 世襲財産ニ關スル願書届書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ

要ス

第二十六條 此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二十七條 此法ハ明治十九年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

○外番一番番岩崎小 本邦華族ノ事歴及ヒ其現況ハ業已ニ各官ノ熟知セ

ル所ナレハ之ヲ省キ今單ニ本案ハ何ノ故ニ今日ニ創定スルヲ要ス

ルヤノ理由ノミヲ説明セン抑モ維新以來二十年間ノ經驗ニ據リテ

華族ノ生計ノ情況ヲ考察スルニ年ヲ逐フテ不良ノ傾向ヲ生スルカ

如シ是レ其固有財産ノ保持方ヲ缺クニ原由ス蓋シ華族ヲシテ其品

位ヲ保チ其風儀ヲ亂ササラシメントセハ宜ク其生計ノ原素タル財

産ヲ保護スヘキナリ政府若シ之ヲ度外視シテ敢テ救護ノ策ヲ運ラ

サスニハ遂ニ立國ノ基本ヲ危殆ノ地ニ陷ラシメントス其レ然リ故

ニ本案ハ華族ヲシテ悉ク世襲財産ヲ創設セシムル旨趣ナルカト問



フニ決シテ然ラス何トナレハ若シ總體ノ華族ヲシテ必ス世襲財産ヲ創設スル義務ヲ負ハシメンカ現在ノ華族ニシテ或ハ却テ其ノ創設ヲ好マサル者アラン其好マサル者ヲ壓制シ強テ之ヲ創設セシメントセハ今日ノ現狀ヨリ推スモ將來却テ其財産ノ異動ヲ來サン故ニ先ツ出願者ニ限り現有財産ニ保護ヲ與ヘ以テ華族タル品位ヲ保持セシメントス是レ閣議ノ大旨ナリ尙ホ各條項ニ涉ル疑義アラハ其質問ヲ待チテ答辨セン

出席

十二番

長岡 護美

○四十四番 大鳥圭介 本案大體ノ主意ハ領會セリ但タ政府カ華族世襲財産法ヲ發布シ以テ特別ニ華族ノ財産ヲ保護スルノ果シテ得策ニシテ且ツ急務ナルヤニ關シテハ本官別ニ意見ヲ有スレトモ今假ニ本

案ノ制定ヲ是認シ而シテ數多ノ疑點ノ中ニ於テ先ツ其二三ヲ質サシニ第三條ノ但書ニ第十五國立銀行株券ハ第二類ニ準シ世襲財産ト爲スコトヲ得ルヲ示シ而シテ第二類中又政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券ナル文字ヲ掲ケリ蓋シ第十五國立銀行即チ華族銀行ハ第二類ニ所謂ル特別ノ監督ニ屬スル銀行ニ非サル耶果シテ同一ノ者ナラハ此但書ハ無用ニ屬スルナラン第四條ハ毎年金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財産ニ非サレハ世襲財産ト爲スヲ得サルコトヲ示セリ然ルニ彼ノ武家華族即チ諸侯ノ如キハ率子多額ノ財産ヲ所有スレトモ元ト小祿ナリシ堂上華族ノ如キニ至テハ或ハ五百圓以上ノ純收益ヲ生スル財産ヲ所有セサル者アラン然リ而シテ純收益五百圓以上ニ係レハ政府ノ保護ヲ

受クルヲ得レトモ其以下ニ係レハ保護ヲ得ント欲スルモ法律ハ之ヲ許サス其財産ノ多少ニ因リテ保護ヲ與フルト否ヲサルトヲ區別セル理由ハ如何ン第十五條ハ家督相續ノ男子ナキトキハ世襲財産ノ効力ヲ失フコトヲ規定ス然ルニ華族ニシテ現ニ女戸主ノ存スルアリ且第二條ノ精神ニ據レハ女子ハ家督相續者トシテ世襲財産ヲ相續スルヲ得サルカ如シ然ラハ則チ女戸主ハ到底此法律ノ保護ヲ受クル能ハサラントス以上三點ノ説明ヲ乞フ

○岩崎小 外二番一 質問ニ答ヘン第三條ノ但書ト第二類トノ區別ハ見今ノ實際ニ從ヒ之ヲ定メリ第二類ニ政府ノ保證アル株券ト云フハ即チ日本鐵道會社日本郵船會社等ノ株券ヲ謂ヒ特別ノ監督ニ屬スル銀行トハ即チ日本銀行ヲ謂フ彼ノ第十五國立銀行ハ明治十年ノ

變亂ニ際シテ之ヲ創設シ政府稍ヤ特殊ナル取扱ヲ爲セシモ敢テ特別ノ監督ヲ施セルニ非ス日本銀行ノ如キ其總裁ハ政府ノ特選ニ出テ勅任ノ官位ヲ授クルモ第十五國立銀行ハ此ノ如キコト無ク且ツ帳簿検査其他ノ規則ニ至テモ他ノ一百有餘ノ國立銀行ト些ノ差違ヲ存スル無シ是レ成文法ノ明ニ規畫セル所ニシテ第二類ノ財産ト區別アルハ明瞭ナリ然レトモ第三條ニ於テ他ノ國立銀行ノ例外ニ置キシハ本法ニ限り特別ノ監督ニ屬スル銀行ニ準セシ者ニシテ若シ此株券ヲ除カハ華族ノ世襲財産ハ成立スル能ハサレハナリ第四條ノ世襲財産ハ五百圓ニ下ヲサル純收益ヲ生スル者ヲ以テ區限セシハ蓋シ大ニ研究ヲ加ヘ而シテ然ク之ヲ定メタルナリ今試ミニ其調査セル所ヲ舉說センニ現時ニ於ル華族ノ戸數ハ舊堂上舊諸侯

神官、僧侶、功臣ヲ合セテ五百二十七戸ナリ此中毎年五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財産ヲ有スル者ハ四百三十三戸ト爲ス故ニ其總數ノ五分ノ四ハ以テ世襲財産ヲ創設スルヲ得ヘシ然ルニ現今政府ト雖モ華族ノ財産ニ干涉シテ細カニ調査スル能ハス只第十五國立銀行及ヒ東京府廳ノ帳簿ニ登記セル公債證書ノ所有額ニ據リ前記ノ調査ヲ遂ケタルノミ此他所有不動産等ヨリ生スル利益額ハ到底調査スルニ由シ無シ華族中ニ神官十四戸功臣三十三戸アレトモ第十五國立銀行ノ株券ヲ有スル者ハ僅僅一二人ニ過キス然レトモ其財産ニシテ表見セサル者ノ猶ホ此他ニ存在スルモ知ル可カラス要スルニ本條ノ五百圓ヲ以テ制限ヲ立テシハ種種ノ考案ヲ盡セシ所ニシテ其華族タル品位ヲ保タシムルニ適當ナリトスル確實ノ財

産額ニ至テハ到頭之ヲ量定スル能ハス且若シ限界ヲ下シテ三百圓ト爲スモ其以下ヲ洩シ一百圓ト爲スモ尙ホ其以下ヲ脱ス然ラハ則チ實ニ其制限ノ適度ノ如キハ到底之ヲ確定スル能ハサラン然レトモ若シ此制限ヲ存セスンハ一圓十圓ノ收益ヲ生スルニ過キサル財産ニ對シテモ尙ホ保護ヲ與フルヲ要シ爲メニ世襲財産法ノ精神ヲ成立セシムル能ハサラントス畢竟此僅僅タル五百圓ノ純收益ヲ以テ儼然タル華族ノ品位ヲ保タシムルヲ得ルヤ否ヤハ確保スル能ハサルモ今日日本人ノ生活ノ程度上ヨリ概算スレハ此收額ハ以テ中等ノ生活ヲ爲スニ耐ユヘシ是レ本條ノ制限ノ由テ出ル所以ナリ第十五條ノ第一項ハ十七年發布ノ華族令ニ據レリ同令第三條ニ「爵ハ男子嫡長ノ順序ニ依リ之ヲ襲カシム女子ハ爵ヲ襲クコトヲ得ス」

ト言ヒ無爵ナレハ華族ニ非ス然リ而シテ現在ノ女戸主ハ同條ノ但書ニ依リ相續者ヲ定ムル時ニ於テ授爵ヲ出願ス可ク又其第四條ニ據ルニ有爵者又ハ戸主ノ死亡セシ後チ男子ノ相續者ナキトキハ華族ノ榮典ヲ失フヲ以テ自今ハ男子ニ非サレハ華族タルヲ得サルヤ明白ナリ四十四番之ヲ領セヨ

○二十二番柴原和

華族世襲財産法ハ其全體ヨリ考察スレハ未タ遽カニ可否ヲ論斷スル能ハス是レ本ト其制度ト國體トニ隨フテ創定スル利害ノ異ナルヲ以テナリ然レトモ本邦ニ於ケル現今ノ制度國體ニ依リテ之ヲ考フルトキハ蓋シ本法ヲ制定スルノ要用ナルヲ信ス疇昔封建制度ノ時代ニ在テハ諸侯ヨリ其家臣ニ及フマテ自ラ世襲財産ノ存在スル有リ家祿ノ如キハ純然ニ世襲制度ニ依リテ子子孫

孫相ヒ繼承セリ故ニ戸主即チ當主ニシテ放蕩ニ流レ其家資ヲ繼承スル能ハサル有ルトキハ家老若クハ親戚ノ相ヒ協議シテ戸主ヲ隱居セシメ以テ其家資及ヒ家格ヲ全ウスルニカメリ之レニ反シテ現今ノ華族ハ從前ノ如キ檢束法ヲ存セス財産ノ監督及ヒ其使用ノ自由ヲ有スルヲ以テ放蕩ニ流レ往往ニ身代限ノ失體ヲ生スル有リ政府ノ殊ニ華族ヲ優待スル今日ニ於テ豈其財産ヲ保護スル法律ヲ設ケスシテ可ナランヤ見ニ已ニ本邦ノ豪農富商スラ世襲財産ノ習慣法自ラ存在シ戸主自ラ其財産ヲ自由ニ使用セルトキハ親戚ヨリ之ヲ制止スルナリ内閣委員ノ説明ヲ聞クニ毎年五百圓ニ下ラサル純收益ヲ有スル華族ハ現ニ四百三十三戸アリト云ヘリ若シ之ヲ放任ニ付シテ歲月ヲ經過セハ遂ニ減シテ三百戸乃至二百戸ニ至ラン故